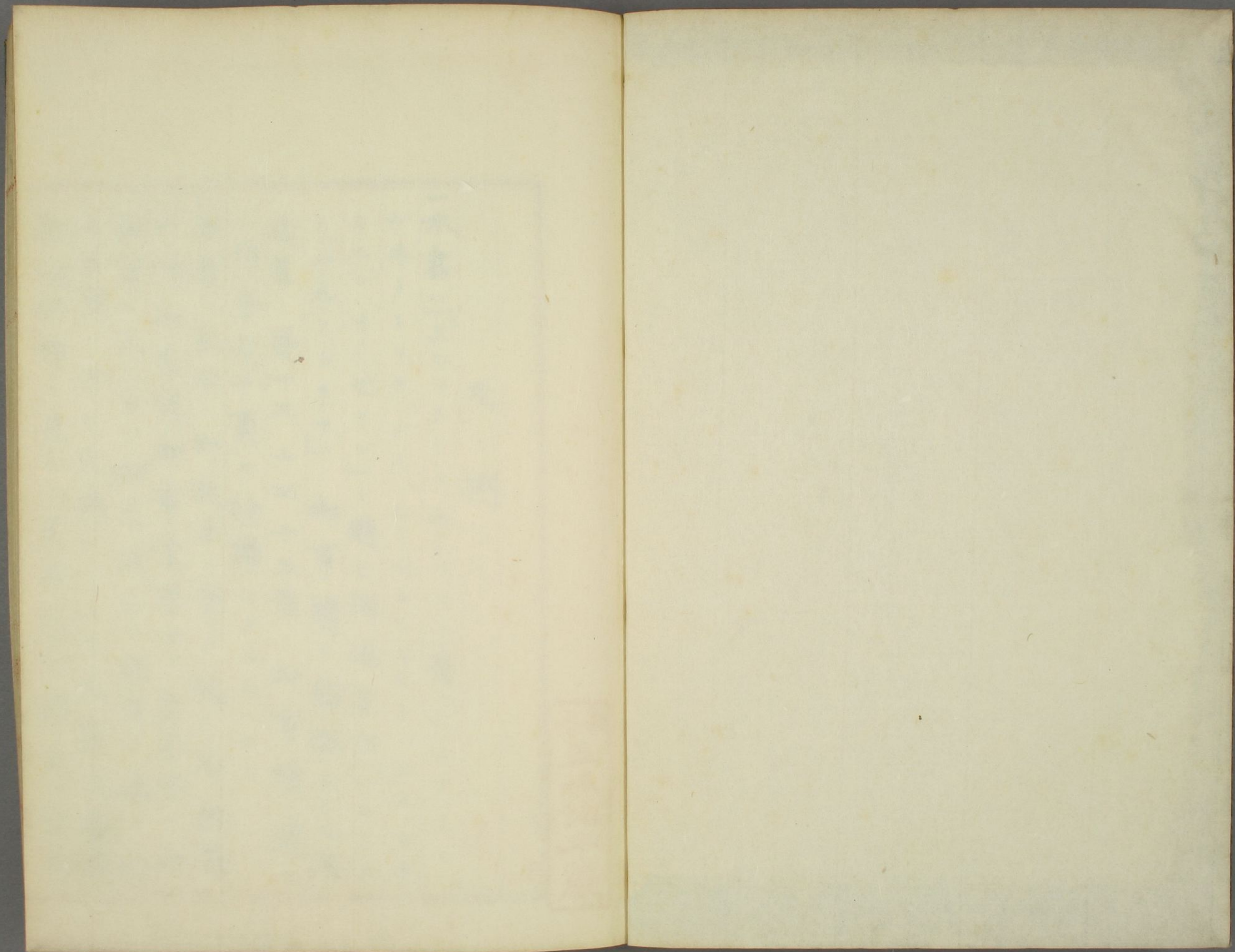




獨逸皇后事蹟

和装本
又 2
4590





凡例

一本書ハ「エルンストン、エーベルス」著「アウグスト、
 ヴンクトリア、ダス、レーベンズビルト、デル、ドネ
 チエン、カイゼリン」ト題シ獨逸皇太后「アウグス
 ト、ヴンクトリア」ノ御事蹟ヲ編修シタル獨
 逸書ノ第十三、十四、十五章ノ御事蹟ニ関ス
 ル部分七十頁ヲ抄譯シタルモノナリ
 一原書ハ皇太后ノ御誕生ニ筆ヲ起シ御教養、
 大婚、御家庭、御事業等ヨリ皇子女ノ御
 教育ニ至ルマテ細大洩サス項目ヲ掲ケ約
 五百頁ニ渉ル大冊ナリトス文章流麗優
 雅近世稀ニ見ルノ美文ニシテ譯者ノ力及

去
水
五味均平蔵



又 2
4590

ハス能ク原文ノ筆致ヲ其儘邦文ニ描寫ス
ルコト能ハサルヲ遺憾トス
一原書中ニハ偶々記事参照ノ為寫真ヲ挿
入シアルモ本書ニハ之ヲ省略セリ譯者ハ法
學博士山脇玄所藏ノ原書ヲ借覽シ及譯
セリ造カ第二版ト記憶ス

大正五年五月

五味灼平

(六六)

獨逸皇后ノ御事蹟目次

- 一 新教寺院救濟會ト婦人救濟
- 二 寺院建築及寺院建築會
- 三 其他ノ團體保護者

宮内省



第十三章 新教寺院救済會ト婦人救済

所謂「ワルテルゼー」會議ニ於テ肥沃ナル土地ニ
少サイ木カ植込マレタ狂暴ナル嵐ハ此ノ木ヲ吹キ
荒シタカ嵐ノ為メニ此ノ樹ノ木ハ却テ風雨ニ堪
ヘ其ノ根ヲ深ク地中ニ張ツタ皇子「ウヰルヘルム」
ハ此ノ會議ニ於テ各事業毎ニ其ノ都度醵金
スルヨリハ一ツノ團體ヲ組織スルヲ適當ト思フト
イフコトヲ述ベラレタ此ノ皇子ノ演説ノ終リニ余
自ラ事業ニ鞅掌センコトヲ要求スルハ余ノ職
務上ノ義務トシテ多キニ過カルカラ余ハ團體ノ
保護者タルコトヲ承諾スヘキ余ノ妃ニ委任ヲスル
然レナカラ余ハ事業ノ發展ニ就テ常ニ報告ヲセシ

メ又會ニ断エズ温キ興味ヲ持ツ様ニスルト云ハレ
夕斯クスル内ニ痛マシキ悲哀ノ時機カ皇室ノ上ニ
来タ悲哀ト痛惜トカ凡ツ一ヶ月間モ續イタ其ノ
間ニ皇子妃ノ涙ニ滂沱タル眼ハ我々國民ノ階級ヲ
廣ク支配シテ居ル恐ルベキ風教上ノ危殆ニ對シ銳
敏ニナツテキタ、皇子妃ノ心ハ此ノ危急ノ際ニ當リ
テ公共事業ニ對シ常ニ温情ヲ持ツテ居ルシタ。一
千八百八十八年ノ三月皇子「ウヰルヘルム」妃ヨリシテ皇
太子妃ト成リシ又同年ニ於テ其ノ配偶者タル夫ノ
側カラ皇后ノ位ニ登ラシタ。「ウヰルヘルム」妃カ皇太子
妃トシテ新タニ創設セラレタル會ノ保護者タルコト
ヲ承諾シ又同年五月二十八日保護者トシテ第一回
ノ總會ヲ開キタルトキニ此ノ高貴ナル保護者ハ會

(三六)

長「レヘッオー」閣下ニ次ノ書ヲ賜ハツタ

一千八百八十八年五月二十六日伯林ニ於テ敬愛スル
「レヘッオー」閣下ニ呈ス、余ハ茲ニ皇太子及余ノ
名ニ於テ新教寺院救濟會ノ第一回總會ヲ開キ
此所ニ臨席セラレタル會員諸君ニ心カラノ感謝
ヲ以テ歡迎ノ意ヲ表セシコトヲ希フ、益々増大ス
ル宗教上ノ道德上ノ頽廢殊ニ大都會ノ大自治区
ニ於ケル頽廢ヲ救濟セシコトヲ試ムル事業ヲ保
護スルノ願望ハ多年來統テノ地方又ハ色々々ナ
方面ヨリ吾々ニ逼ツテ来タ、出来得ルカケ之レ等
ノ多クノ願望ヲ満足セシメル考テ又今日但懺セ
ラレテ居ル寺院ノカヲ以テシテハ屢々之レ等ノ願
望ヲ満足セシムル目的ヲ達セラレナイトイフ意

味ニ於テ吾々ハ我カ新教寺院ノ幸福ヲ願ヒ且人
類ノ精神的墮落ヲ憂フル惣テノ人々ノ共同一致
ニ依リ博愛事業ヲ全國ニ於テ起サナレバナラ
ヌトイフコトヲ信ビテ居ル先月ニ於ケル内外ノ重キ
心配ト悲哀トハ二倍速カラテ唯救済慰藉及
助力ノ淵源ヲ國民ニ獲得セシムル為メノ誠實ナ
ル公共的事業ヲ進行セシメタ

皇帝陛下即余ノ心カラ敬愛シテ居ル義父ハ
余ニ今日此處ニ集ワテ居ル會ノ保護者タルコト
ヲ承諾スルヲ恩惠的ニ許サレ又皇后陛下ハ喜
ンテ同意ヲ表セラレタコトハ深ク余ノ喜悅ニ堪エ
カル所ナル本會ハ新教ノ地盤ノ上ニ又寺院
ト密接ナル關係ニ於テ立派ナ真面目ナ而カモ

大ニ責任ノアル事業ニ付キ共ニ力ヲ盡ス為メニ召
集ヲセラレタノナル、又本會ハ既ニ成立シテ居ル
同種ノ事業ヲ補助奏達セシメ又新シク必要ト
ナツタ事業ヲ奨励セシコトヲ努メ並ニ之ニ関シ内
地ノ傳道上適當ナル組織ヲ為シ分裂ノ不利益
ヲ排除セシコトヲ助ケルニアル

敬愛ス(キ「レバツオ」)閣下及新教ヲ以テ國民
ヲ助ケシト思フ惣テノ者ニ對シ余ハ心ノ真底ヨ
リ出テ来ル願カアル、諸君我カ神ノ名ニ於テ
及神ノ幸福ヲ願ヒテ創メル所、此ノ事業ニ於
テ救世主ノ世界ニ持テ来タシ世界ニ許シタ平
和ト媾和(神ト人トノ媾和)トヲシテ惣テ吾々ノ並極
星(指導星)タラシメヨ而シテ吾々ハ人ノ忠告及

人ノ力ニ便ルヨリヨリ多ク吾々ノ願望ニ心配、希
望ヲ神ノ心ニ便レ、吾々ハ精神ノ一致ニ依リテノミ
寺院ニ遠サカリタル者ヲ再ビ宗教ニ近ケシメ
信仰セシムル

現在ノ基礎即「イエスキリスチ」以外ニ何人モ
有セサル其ノ基礎ノ上ニ諸君ハ吾々ヲシテ建設
セシメヨ皇太子妃「アウグステー」フキクトリア
此ノ書面ハ此ノ博愛事業ヲ遂行スルニ付テ殿下
ノ持ツテ居ラシメ温キ同情ニ對シ正直ナル証據ヲ
提供スルノミナラス殿下ガ能ク斯クノ如ク會ノ目
的ト方法トヲ認識シ又ハ記載シテ明ラカナ眼識
ノ証據デアアル此ノ書ハ簡單ニ會ノ綱領ヲ記載
シテ居ル此ノ原理ト觀察點ヨリ會ハ事業ノ發展

ヲ劃策シテ、殿下ガ會ノ戸ヲ開ケルコトヲ助ケテ
トイフコトハ獨逸帝國ニ於テ彼方ニモ此方ニモ知
ラレテオ、一千八百八十九年ニ又第二回總會ガ高
貴ナル保護者ノ自書ノ朗讀ニ依テ開カレタ其ノ
書ハ次ノ如クデアアル

一千八百八十九年五月二十日伯林ニ於テ敬愛スヘキ
「レベツオー」閣下ニ呈ス余ノ夫皇帝陛下ト余
ヨリ設立セラレタル新教寺院救濟會ノ組織ガ
既ニ全王國ニ完成シ到ル處ニ共同事業ヲ開
始シタルコトノ報告ヲ得タルハ余ノ喜悅ニ満足
スル所デアアル、余ハソレニ付テ總テノ會員並ニ特
ニ又五月二十二日、此處ニ集マラレタ諸君ニ余ノ心
カラノ感謝ノ意ヲ傳ヘラレレコトヲ願フ、會ノ設

立サレタノハ真面目ナ悲痛ノ時デアツタ、保護
者タルコトノ余ノ承諾ハ世ノ辛酸ヲ嘗メタル貴
キ故人義父「フリードリッヒ」皇帝ニ願ヒタル最
後ノ一大要望デアツテ又同皇帝カ昨年五月四日
ノ閣令ニ依リテ余ニ満足セシメタル願望デアツタ
余ハ吾々ノ國民ニ於ケル内外ノ不幸ヲ軽減スル為
メニ起ツテオル信仰及博愛ノ事業ニ盡カシ又ハ
神ト人ニ對スル余ノ義務ヲ果ス為メ又事業ト
運命ヲ共ニスル為メ力ノ及ブタケ面倒ヲ見ルコト
ニ致シマス、神ノ言葉ニ基キ且忠實ニ神ノ跡ヲ
追フテ行ハル、吾々ノ公共事業ニ對シテ然テノ否定
的破壊的ノ傾向ガアルカ此ノ傾向ハ負傷者ヲ治
療シ慈善ヲ行ヒ平和ヲ設ケ善ヲ以テ惡事ニ打克

ツコトニ於テ果シテ幸福デアロウカ

大都市及工場地ニ於ケル宗教及風俗ノ頹廢ニ對
抗シ之ヲ救治スルハ特ニ吾々ノ健續的ノ心配カ必
要デアアル、余ハ敬愛スベキ「レベツォー」閣下ニ對
シ閣下カ他ノ多クノ職務ノ傍ラ尚又本會ノ指
導ニ從事セラル、閣下ノ親切ト忠實ニ對シテ尚
特ニ私ノ心カラノ感謝ヲ述ベル、皇后王妃「ブヂク
トリアマ」

其ノ答辭トシテ同會ハ皇后陛下ニ次ノ感謝ノ辭ヲ
呈スルコトヲ決議シタ

至高至大至仁ナル皇后、王妃陛下ニ奉ル陛
下ハ新教寺院救濟會ノ本日ノ會合ニ當リ會
全体ニ對シ永久ニ貴重ナル紀念ト成ルヘキ手

書ヲ賜ハルノ仁慈ナル惠澤ヲ垂レ給フタヒ吾
か至仁ナル保護者タル陛下ヨリ吾々ニ提出シ
タル諸問題ノ價値及之ヲ解決スヘキ意見ヲ
玩味スルトキハ吾々ハ充分ナ尊敬ヲ以テ感謝
セナケレバナラナイ義務アルコトヲ感ゼズニ
ハ居ラレナイ陛下ハ吾々國民ノ宗教上ノ顔
廢ニ對シ聰明ナル眼識ト温キ同情ヲ示シタ
計リテハナイ真挚ナル而カモ柔順ナル敬神ノ
途ニ付テ耶蘇教の道德ノ立派ナ模範ヲ示シ
テ居ル吾々ハ吾々ノ會ノ事業ニ對シ心アル者
ノ總テノ名前ニ於テ話シテ居ルトイフコトヲ確
ニ信シテオル國民ハ總テノ階級ヲ通シテ神
ノ惠ト^兩陛下ノ慈善カ國民ニ如何ニ幸シテオル

カヲ知り且之ニ對シ皇帝皇后ノ為メニ絶エズ
祈願ヲナシテ、神ニ感謝ヲスル然シナカラ新
教國民ノ宗教生活ノ深キ損害ヲ力ノ及フ
タケ滅殺スル為メ好シテ勉メヨウト思フテオ
ル吾々ハ陛下ノ至仁ナル手書ニ依テ斯クノ如
キ有力ナル奮勵ト救助ヲ與ヘラレ又神ノ好
ム事業ヲ忠實ニ繼續シテ遂行スル様ニ陛
下カ本心カラ祈願シテ居ルコトヲ深く感動シテ
喜ニテ居ル、一千八百八十九年五月二十二日伯林
ニ於テ最モ畏敬スヘキ陛下ニ奉ル最忠順ナ
ル新教寺院救済會ノ通常委員「レベッオ
ー」
會ノ事業ハ着々ト進行シテ行ツタ、獨逸國民

ハ何ニテ會ノ旗カ陛下ヨリ授與セラレタカヲ知
ツテ居ル吾々カ若シ會ノ豊富ナル又廣汎ナル
事業ニ付テ一瞥セント欲セバ「プロイセン」王
國ノ統テノ地方ヲ巡廻セナケレバナラヌ、皇太后陛下
下カ断エズ保護ニ付注意セラレタル伯林ノ市内
傳道ニ對シテハ會ハ金庫ヨリ年々補助金ヲ與
ヘタ其ノ外其ノ他ノ大都會及工場地ニ於テ宗教
上ノ危急ノアル毎ニ多額ノ補助金ヲ支給セラ
レタモノテ其ノ支拂ニ付テハ底止スル所ヲ知ラン
程テアツタ次ニ掲グル都市ニアリテハ傳道師ト
教區ノ救助人トノ生活費用ニ對シテモ補助
金カ交附セラレタ即「ハーベル」河沿岸ノ「ブラ
ンデンブルグ」市、「エーベルスワルデー」市、「オーデル」

河沿岸ノ「フラシタフルト」市、「ゾンメルフェルト」市
ノ如キハ之レテアル、「東プロイセン」ニ於テハ「ケーニッ
ヒスブルグ」市ノ都市傳道、「西プロイセン」ニ於テ
ハ「ダンケツヒ」及「エルビング」ノ都市傳道、「ザク
セン州」ニ於テハ「マクテブルグ」、「ハルデー」及「ステ
ダー」ノ都市傳道、「シエレケエン」ニ於テハ「プレス
ラウ」、「リールフニウツ」、「ケルリウツ」、「シエワイトニウツ」
及「オウペルー」、「ボンメルン」ニ於テハ「ステウツ」ノ
「アレドール」、「ポーセン」ニ於テハ「プロンベルグ」、「シエ
ナイデー」、「ユール」及「ポーゼン」等ノ都市傳道ハ通
常保護セラレタ「ウエストファーレン」、「ライン」諸
國ニ於テハ多數ノ工場地ニ布教ノ為メノ補助金
カ與ヘラレタ、新シイ地方「アルトナール」、「ノイ

ミユンステル、ワンプベック、オルテス、ハ
ノール、リユーネブルグ、クラウスタール、ハ
ノール、カウセル、フライテンバッハ、如キモ補助
金ヲ受ケタ

新教寺院救済會ハ全國ニ通ジテ手ヲ擴ケタ各
州ハ夫レ夫レ多數ノ支部ヲ有スル本部ヲ持ツテ
居ツタ、二三ノ地方ニ於テハ會ノ事業ヲ發展スル
為メニ特別ニ會附属ノ牧師ヲ任命シ又他ノ地
方ニ於テハ内地傳道ノ會附属ノ牧師ヨリシテ兼
務トシテ會ノ機關又ハ會ノ騷擾等カ監視セラル
タ、各州ノ會長ハ到ル處信用アリ水火モ辭セサ
ル覺悟ノアル人々ヲアツタ、偉大ナル此ノ博愛事
業ヲ一貫シ又ハ此ノ事業ヲ統一シテオル總テノ

命令權ハ特選委員會ニ於テ之ヲ掌握シ其ノ本
部ヲ伯林ニ其ノ事務所ヲ「ポツダム」ニ持ツテ居
ル
會ノ為メニ偉勲アル知事「ドクトル、フォン、レハッオー」
ノ死後一千九百三年ニ於テ新教高等寺院會議ノ
副長男爵「フォン、ゴルツ」、牧師「デー」ハ特選委
員ニ任命セラレ其ノ死後ハ今日ノ「フランケンブルク」
州ノ知事男爵「フォン、マントイフェル」其ノ代リトシ
テ任命セラレタ、約二十年間全カヲ傾注シ喜ビ勇
ニテ犠牲的ニ事ニ當リ若イ木ヲ吹き荒レタ愧テ
ノ嵐ニ對シ進行的ノ勇氣ヲ以テ對抗シタル皇
后大夫男爵「フォン、ルバツハ」ト相並ニテ「ドクト
ル、フォン、ペールピンノー」カ皇后ノ顧問ト成ツタ、而

シテ之レト同時ニ彼ノ新シキ會ノ繁榮ノ為メニ偉
勲ノアツタ「フオシ、ミルバツハ」名譽特選委員ニ任
命サレタ、特選委員ノ事務ハ初メノ年ニ於テハ「正
リサベス」ト見病院ノ説教師「パストールレンツ」カラ
兼務セラレタ又其ノ後継者ハ一時「エリサベス」ト
見病院ノ説教師デアツタ「パストールラメール」テ
アツテ新教寺院救濟會ノ事務專任トナル為メ「エ
リサベス」ト見病院ヲ辭職シタノデアツタ、事業ハ
續イテ二回三回ノ説教師ヲ募集セナケレバナラナ
イ程大イニ發展シタ會ノ事業ガ如何ナル範圍ニ
マテ開奏シタルカハ特選委員ニ於テ第一回十五周
年ニ計算シタ所ノ金高ガ優ニ四百五十万「マー」ク
ニ達シタトイフコトヲ窺フコトガ出來ル

海岸ニ立ツテ居ル者ニハ海ノ深サヲ想像スルコトガ
出來ナイ然シナカラ波ノ中ニ這入ツテ行クモノニ
ハ波ガ或ハ膝マテ或ハ肩マテ達スルカヲ深サヲ知ル
コトガ出來ル又舟ニ乗ツテ海面ヲ漕ギ測深器
ヲ投込ム者ハ舟ノ浮シテ居ル海ノ深サニ付テ驚ク
コトガアル會ノ指導ヲ委任サレテ居ル人々ハ海
上又ハ海岸ニ於ケル水夫ト同ジ様デアル然シナ
カラ皇太后陛下ハ色々ナ事業ニ付テ報告ヲ為サ
シメル計リテナク忠實ナル基督ノ愛ニ付テ鋭敏
ニナツテオル眼ヲ以テ會ノ事業ノ發展ヲ行フタ
「サール」河沿岸「ハルレー」市ノ宗務監督「デ、フ
エルスター」ハ其ノ書齋ノ卓子ニ腰ヲ掛ケテ居
ツタ、夫レハ恰度新教寺院救濟會ガ宗教ノ類

廢ニ對シ救助ノ手ヲ下シタ頃テアウタ宗務監督
ハ此ノ「ハルレー」市ノ宗教上ノ類廢ニ付テ大ニ心
配ヲシテ市内傳道者ノ任命ニ付テノ回章ヲ
作成シタノデアアル此ノ勸告ノ叫ビハ人ノ良心ヲ動力
シ真面目ナ人々ヲシテ此ノ公共事業ニ賛成セ
シメ市ノ内地傳道會ハ設立セラシ其ノ傳道師
ハ任命セラレタ、此ノ傳道師ハ又出獄人ノ保護ヲ
モ為シタ監獄協會々長教授「デ・ヘーリシグ」ハ此
ノ偉大ナル傳道事業ニ關シテ著名ナ人ト成ツ
タ「デ・ヘーリシグ」ハ新教寺院救濟會ト共同シテ
一名ノ牧師ヲ任命スル為メ此ノ會ト團結シ一千
八百九十六年牧師「ヨゼフ・ゲムサ」ヲ任命シ事
業ニ着手セシメ篤志家ハ彼ヲ助ケタ「ザラセ」

州ノ教會々長伯爵「ホーヘンタール」テルカウ「ハルレ
ー」ノ辯護士「エルフェー」宗務監督「ウエヒトレル」
「デ・フリース」等ガ之レテアル「ワイデン」プラシニ於テ
三棟ノ家ヲ讓受ケ其ノ後間モナク宏大ナ遊園
地舊「ローゼンタール」ヲ買収シ此處ニ無アルコイル
ノ料理屋ガ出来タ此ノ建物ニ於テハ人ノ靈魂ヲ
救フコトガ事業ノ最終ノ目的デアウタ此ノ「ローゼ
ンタール」テハ又屢々新教ノ集會ガ催サレ人類ノ
精神ニ幸福ヲ與ヘ其ノ健全ヲ確實ニスル為メニ
此ニ人々ガ集ウタ益々蔓延スル好酒ノ惡癖ニ對シ
テハ青十字會ガ設立セラシ又少女ノ基督教會ガ
起ツテ大ニ盛ニシタ市傳道ノ傳道場ニハ煩悶
又ハ救濟ヲ求ムル人々ガ出入シタ聖書販賣ノ為メ

ニハ本屋が出来タ「ハルレー」市ノ彼方此方及殊
ニ市ノ傳道場ニハ「バイブル」ノ講義が定時ニ開
カレタ夏ニハ市傳道ノ愉快ナル遊園地が市民ノ
家族ニ開放セラレ庭園祭ニ参加セシムル為メ招待
シタ、青十字ハ毎年四千人以上ノ日給ヲ支拂ハルキ
工場トシテ一千九百四年建テラレタル男子避難所
ヲ以テ其ノ本據トシタ浮浪人ノ收容所が建テラレ
又女子避難所が建テラレタ女子避難所ニハ老幼
及母乳児等が收容セラレタ、市ノ傳道場ヨリハ毎
日毎日七人ノ男ト三人ノ女カス、靈魂ヲ救ヒ患者
ヲ慰問シ悲シテ居ル者ヲ慰メ遺児ト迷児ヲ収
容スル為メ「ハルレー」市ノ各戸ヲ訪問シ「汝等
神ト媾和セヨト」ト喚ブタメニ出テ往ツタ事業ニ

功績アリ神ニ幸福ヲ祈ツタ最初ノ指導師牧師
「カムサー」ハ一千九百二年或ル自治体ノ公職ニ
就ク為メ「ハルレー」市ヲ去ツタ其ノ代リニ任命セ
ラレタノハ牧師「ホフピング」テアル、牧師が任命
サレルニ從テ事業が段々増加シタ第二ノ傳道師
ハ牧師「フォンホーフ」テアル、一千九百三年ノ秋市
ノ傳道場ニ皇后陛下が成ラセラレ傳道が如何
ニ發展シテ居ルカヲ御覽ニナルトイフ通知が来
タ「ハルレー」市ノ傳道師ノ非常ナ喜ビノ中ニ
陛下ハ傳道場ニ御出テニナリ一々傳道ノ場所
ヲ御覽ニナリ非常ナ興味ヲ以テ事業ノ各分
科ノ發達ニ付テ報告ヲ為サシメ總テノ場所ヲ
示サセテ會ヲ紹介セシメタ此ノ日ハ市傳道ノ為メニ

喜ハシキ日デアアルガ又而シナカラ皇太后陛下ニ對シ
テモ喜ハシキ日デアアル何トナレハ陛下ガ其ノ夫ト
數年前ニ蒞キ初メ多種カラ何ニナ果實ガ出来
タカラ見ルカラデアアル

吾々ハ「サール」沿岸ノ「ハルレー」市カラ首府ニ話
頭ヲ轉ジ基督ノ愛ガ市傳道及在來ノ事業
及團體ノ外ニ如何ナル事業ヲ成立セシメタカラ
見ヨウト思フ余ガ自分ノ事ニ付テ一時話ヲスル
カ親シキ讀者ハソレヲ許シテ呉レルタロウ、事業
ノ多キ約十六年ノ間私ハ自ラ伯林市テ救済ヲシ
ナケレバナラナカツタ、一千八百八十七年ノ年報ニハ「ス
プレー」河ノ十舟ノ上ニ立ツテ船頭ニ新教ヲ説教
シテ居ル一人ノ男ヲ畫イテ居ル繪ガアツタ此ノ繪

ハ私ガ一千八百八十年ノ初伯林ノ市傳道ノ或ル事
業ヲ行ハナケレバナラナカツタ時ニ私ノ心ニ銘シタ
私ノ傳道ノ場所ハ「ケメオンス」区内ニア
ルトイフコトヲ神ガ命ジタ「ケメオンス」区ニハ夏季
ニ於テ常ニ水門池ノ内ニ禮拜船ガ繫イテアツタ
私ハ屢々其ノ頃カラ自ラ「スプレー」河ノ十舟ノ
上ニ説教ヲスル為ニ立タナケレバナラナカツタ其ノ
時ニハ水ノ上ヨリハ岸ノ方ニ説教者ヲ取り捲クテ
多クノ人ガ集ツタ折々下賤ナル「ビール車」ノ馭者
生意氣ナ若イ靴工等ガ岸カラ「黙レ坊主」ト
叫ンダ、今ヤ時代ハ遷ツタ當時砂利又ハ石ヲ積
ンダ「スプレー」河ノ十舟ハ禮拜船トシテ吾々ニ役
立ツタ、而シテ舟ノ上ヲ横ニ渡シテアツタ板ガ私

ノ神壇ニアツタ又曾テ私カ市傳道ノ牝鉢僧ノ
中カラ連シテ来タ若イ歌手カ二枚目ノ板ノ上ニ立
ツテ居ツタ所カ其ノ板カ破レテ其ノ十供ハ十舟ノ
載セテ来タ砂利ノ中ニ腹這ツタ、岸ノ市民ハ此
ノ不幸ヲ響キ渡ル歡ビノ聲ヲ以テ迎ヘタトイフ
様ナ事モアツタ今ヤ其レカ何シナニ変ワテ居ルカ
皇太后陛下ハ救済ヲシタ、一年間ニ首府ノ川及運河
ヲ千人モ漕グ船頭ニハ付キ切りノ特別ナ牧師カ
任命サレテ居ル又浮寺院トシテ莊嚴ニ幟装セラ
レタル特別ノ舟カ作ラレタ又澤山ノ船頭カ滞在
シテ居ル所々ニハ禮拜所カ設ケラレルノカ常ニテ
アル船頭ノ子供ハ說教師ノ團リニ集リ各種ノ
有益ナ施設ハ其ノ集會所又ハ其ノ本部ヲ所

謂寺院船中ニ置キ其ノ寺院船中ヨリ川舟ノ
船頭等ニ說教ヲセラレルノカ通例デアツタ、一千
八百九十二年デアツタト思フ私カ曾テ「ゴルス」ノ牧
師ヲ訪問シテ私ハ毎日様々「ホテル」^{ホーイ}「社會」
ヲ支配シテ居ル不幸ヲ目撃シタ而カモ私ハ黙
ツテ手ヲ拱イテ見テハ居ラレナイ神ノ名ニ於テ
事業ヲ初メ「ホーイ」ニ禮拜ヲ為サシメ其ノ社
會一被ニ聖書ヲ頒布シヨウト思フトイフコト
ヲ話シタツレニ付キテ私ハ牧師閣下ニ新教寺
院救済會ノ伯林ノ支部會ヨリ補助金ヲ給サレシ
コトヲ願フタ何トナレハ伯林ノ市傳道ハ事業ニ
必要ナル資金ヲ充分ニ持ツテ居ラル、カラテアル
君ヨ余ノ言フコトハ間違デアルカモ知ラニ然レナカ

ラ余ハ又余ノ考ヲ閣下ニ申上ケマセウ「ホーイ」ハ
決シテ彼等社會ノ為ニツノ禮拜堂ヲ持タウトハ
思ハン却テ他ノ社會ノ人々ト共ニ禮拜堂ヲ為サント思
フテ居ル」ト恰恠ナ牧師ハ答ヘタ其所テ私ハソレニ
對シ「然シナカウ大ホテル」コホーイ」中ニハ特別ナ
説教者ノ周圍テ夜遅ク祈禱ヲスルノカ少クナイ
ト答ヘタ、彼ノ牧師ハ三タビソレニ對シテ言ハレタ
「其ノホーイ」等ハ来ルカモ知レン又其ノ祈禱ヲ
續ケルカモ知レヌ」ト答ヘタ

私ハ斯クシテ新教寺院救濟會ノ補助金ヲ受取
タ、禮拜堂ハ「ドロテ」町ニ造ラレタ一ト冬ノ間「ホ
ーイ」等ヨリ禮拜堂ヲ試ミラレタカ後ニハ殆ド全ク
「ホーイ」ノ禮拜堂ハ無ク他ノ市民カ来ルハカリテア

ツタ二年後ハ此ノ禮拜堂ハ消滅シタ然シナカウ
「ホーイ」等ニ對スル傳道事業ハ健續シタ其ノ
傳道事業ニ付テ面白ク多クノ歴史ヲ私ハ話ッウ
ト思フ基督教青年會ト伯林傳道會ハ互ニ提携
シテ事業ヲ行フタ其處テ「ホーイ」社會ノ為メ保
護部ガ組織セラレタ

獨逸ノ皇太后陛下ハ多クノ煩悶者及多クノ賤民
ニ對シ同情ヲ持ツテ居ツタ今ヤ伯林ノ「ホーイ」
等ハ休息、活動、懇談又ハ基督教團結ノ為メ其
ノ獨特ノ本據ヲ持ツテオツタ浮浪人ニ付テ余ハ一
浮浪人ニ付テ余ハ一二ノ断片ヲ語ロウト思フ浮浪人ハ
道路又ハ籬牆等ニ迂路迂路シテ居ルモノテアワテ
伯林ノ隠レ家カラ出テ来ル輩デアアル「コンスタン

ケンリリーワツヒ」ハ断エズ之レ等ノ人生ノ深キ淵ニ
沈淪シテ居ル貧民ニ付テ忠實ナル注意ヲ拂フ
タ生活ノ嵐ヨリ吹キ倒サレ風教上ノ危峻ニ断エズ
圍繞サレテオル人々ヲ毎日曜日ノ朝招致スル會ヲ恒
歳ニ珈琲ト卷パントヲ與ヘ且聖書ノ種子ヲ彼等
ノ心ニ植付ケタ、余程以前私ハ伯林ノ北方ノ「フェル
ステンブリューヘル」ニ集ツテ居ル浮浪人ノ前ニ生活
ノ言葉ヲ彼等ニ提示スル為メニ立ツタコトガアル其
ノ後又伯林ノ南方ニ傳道場ノ中央ニ屢々立ツタ各
場所ニ約五百人位ノ之レ等浮浪ノ貧民が集ツタ
屢々戶外ニ集ツタ人々ノ間ヲ通過シタ時戸ノ開
カレル前ニ斯ウイフ言葉ヲ聞イタ、ナリ「アウケス
ト」御前ニ好キ一杯ノ珈琲ヲ飲マセヨウカ、見ヨ其

處へ吾々ノ總テニ宗教上ノ飲料ヲ提供スル牧師ガ
来タ御前ニ聖書ガ頭ノ上ヲ這ル間静ニシテ居レ
而シテナカク人々ハ唯輕易ナツマライ言葉ヲ聞クハ
カリテハナイ又大変ニ眞面目ナ悲シキ顔ヲ眺メ祈禱
ノ後ニ正シキ道ニ多クノ人々ハ導カレタ又此ノ事業
ニ對シテ皇后陛下ノ心ハ慈善的ノ「ザマリア」人ノ愛
ニ打タシタ、今ヤ無職業者ニ對スル此ノ事業ノ會
ハ伯林市ノ北方ニ其ノ本部ヲ持ツコト、ナワタ
然シナカラ伯林市ノ門ノ前ニ尚老年ニ於テ喜シテ働
ク所ノ牧師「ボーデル」ニシテ「ケ」ノ手ニ依テ希望ノ谷
ト稱スル殖民地ガ同じク失職シタ人々ノ為メ成リ
立ツタソシテ又其所へ皇后陛下ガ博愛事業ノ如
何ニ活働シテ居ルカヲ視察シ且此ノ方面ノ益々發達

スルコトヲ獎勵スル為メニ行啓ニ成ツタ

余ハ基督ノ生命カ多クノ他ノ地方ニ於ケルヨリハモ
ツト力強ク脈ヲ搏ツタ吾カ祖國ノ首府ニ於ケル新
教寺院救濟會ノ事業ヲ述ベヨウト思フ余ハ又
「エルビシク」ノ會ノ救助ニ依リ新シキ立派ナ公會堂
カ建テラレタ東部地方ニ讀者ヲ導クコウカ、皇太后陛
下ハ其ノ出生地「シユレリツクホルスタイン」ニ常ニ温イ
心ト開イタ手ヲ持ツテ居ツタトイフコトハ明カデア
急ニ繁華ニナツタ軍港「キール」ニ於テ新教寺院
救濟會ハ基督青年教育及自治体ノ救濟ノ為メニ
牧師ノ「ベツカー」及教授「テシエーテル」ヨリ一千九
百四年新シク建テラレタル會ヲ補助シタ其ノ青年
會ハ「ルーテル」家ト共同シテ新シキ愉快ナル本部

ヲ有シ其ノ自分ノ事業ノミナラス又多クノ市傳
道ノ事業ヲ熱心ニ保護シタ

「ホルスタイン」ノ「ノイ」シユスター」市ハ北部鐵道ノ
接續地デア、此ノ市ノ右側ニ工場ノ煙突ガ高ク聳
エテオル此ノ市ニ於テハ荒類ハ益々蔓延セントシテオ
ル此ノ市ノ新教管區々長ハ一千九百年ニ美麗ナル
公會堂ヲ建築シ今年ノ降誕節ニ青年會ハコ
コニ本據ヲ得テ市ノ傳道及牧師「フォイグト」ノ指
揮ノ下ニ會ハ大ニ繁榮シ聖書ノ為メニ集合レ公會
堂ニ立テ籠ツタ然シナカラ會ハ外部ニ向ヒテモ亦
神國建設ノ為メニ活動シテオツタ夏期ニ於テハ村
落ニ傳道シコニ傳道祭カ行ハレタ、青年隊ノ音
樂隊ハ群眾ヲ吹キ寄セ之ニ宗教上ノ博愛ノ歌ヲ

心ニ入レタ併シナカウ傳道ノ行ハレサル日曜ノ最後
ニハ青年ハ何處ニ散策スルカ博愛事業ハ機敏
テアル「ウツトルフ」村ノ柏木林ノ中ニ空地面カアル
此ノ地面ハ會ノ借地テ遊戲的トシテ作ラシタモノデ
アル青年會ノ喇叭隊ト笛ノ合奏隊ハ此處ニ進軍
シ遊戲シ操練シ合唱シ又屢々講習會ガ開カレ
夜ニナリテ再ヒ愉快ニ帰宅シタ之レ等ノ人ハ舞蹈
場ニ於テ喫烟飲酒骨牌遊ヒニ耽ワテオル若キ人々
ヨリハ立派テ廉價ナ日曜日ノ快樂ヲ持ツノデアル
此ノ夏期ノ快樂ハ青年會ノ遊戲場ニ於テ秋期
ニ日當ヨキ日曜日ノ午後行ハル、宗教上ノ國民
祭ニ於テ閉會ヲ告ケラル、ノデアル

余ハ是レ迄專ラ或ハ主トシテ男子ヨリ為サシタ
ル會ノ事業ノ成績ヲ述ベタ、皇太后陛下ハ以前ヨ
リ婦人ハ男子ヨリモ救濟的博愛事業ヲ辛棒強
ク又忍耐シテ行フモノデアルト云フコト及所謂男子
ノ活動ハ所謂女子ノ活動ニ依リテ其ノ缺欠ヲ補充
セラレナケレハナラヌトイフコトヲ知ツテ居ツタ、又陛下
ハ婦人社會ニ於ケル救濟事業ハ男子社會ニ於ケ
ル救濟事業ト同等ニ重要ナモノデアルトイフコト
ヲ認メタ、陛下ハ一千八百九十七年新教寺院救濟會
々長「レベウオー」ニ次ノ書ヲ賜ツタ

寺院ノ布教事業ノ傳播ト相並ニテ共同生活
ノ覺醒ト進歩ノ為メ殊ニ看護婦ノ事業カ必
要デアルトイフコト並ニ公會堂ノ建設ガ必要テ

アルトイフコトハ永年唱道セラレテオルクトテアワテ
其ノ公會堂ハ寺院ト連絡ヲ取ツテ最モ廣ク行ハ
ル、實際的博愛事業ノ為メニ作ラレルモノテアワテ
其ノ中ニ於テ他ノ場所ニ於ケルト同ジ様ニ凡テノ階
級身分及黨派ノ如何ヲ問ハズ救助セラレルコトが
出来又喜ンテ出捐シ又感謝シテ受納スルコトノ
中ニ貧富ノ區別モ立テ互ニ和親スルコトノ出来ル
モノテアル、茲ニ余ノニツノ會ハ共同シテ重要ナル新
教ノ問題ノ解決ニ與カルコトが出来ル然シナカ
ラ斯ノ如キ事業ニ對シテ職務上關係ニテオ
ル男子ノ活動ヨリハ婦人ノ心ト手ハ之レニモト適當
シテオツテ實ニ吾ガ婦人社會ノ為メニ茲ニ特ニ廣ク
而カモ立派ナル事業ノ沃野ガアル譯テアル也

故ニ吾ガ國民ニ新教ノ幸福ヲ斷エズ充分附
與スルコトニ盡カセレコトヲ新教婦人ニ對シ余ハ
心カラ願フノデアル「アウグステー」フ井トリア
當時伯林ニ於テ新教寺院救濟會ノ支部ハ健
續的ナ家庭的看護ノ實行ノ為メニ看護婦場
ノ設立ヲ企テタ其處ニハ既ニ看護ノ實行ノ為メ
ニ多數ノ市民ガ働イテ居ツタカ然シナカラス
等ノ市民ハ一人ノ病人ニ長イ間ヲ通シテ從事ス
ルトイフ事ヲハ種々ノ不幸ガ最多ク妨ケテ居ル
新教寺院救濟會ノ看護場ノ看護婦ハ單
ニ重イ病人又ハ長引ク病人ニ附切ツテ看護ヲ為
スノ必要ガアリ且ツ同時ニ病人以外ノ家族ノ日常
ノ生活ヲモ保護スル必要アル場合ニ於テノニ附

切リノ家庭的看護ヲ實行シタ既ニ一千八百九十
年五月ニハ四ヶ所ニ於テ二十人ノ同胞カ此ノ種ノ事
業ヲ始メタ、十年後ニハ場所ハ十四ヶ所同胞ハ百
七人ニ増加シタ當時救助ヲ受ケタ家庭ハ三千
軒カラテアル、如何ニモ多クノ住民カ之ニ依テ
困難ナル場合又ハ長引ク不幸ニ對シ保護サレテ
アルコトテアルヨ、又「ホツダム」ニ於テハ既ニ四ツノ
場所ニ於テ事業ヲ始メタ、皇后陛下ノ彼ノ令
旨ハアキラニモコケラニモ燃エ付イテ働イテ居ッ
タ斯クノ如キ婦人救済ハ幸福充分ニ働イテ居ル
愛國婦人會ノ為メニ妨ケラレハセ又カ何ウカト
イフコトノ問題ハ彼方ニモコケラニモ起ツタ、皇
后陛下ハ同シク此ノ問題ヲ考慮シ新教寺院

救済會ノ特選委員會ニ次ノ書ヲ賜ハツタ

吾々ノ貴キ新教寺院ハ寺院ノ新タナル共
同的博愛事業ニ依ツテモツト廣汎ナル内部
ノ團結ヲスルトイフ願望ニ於テ又コレニ對シテ
ハ吾々婦人自身ノ活動ハ特ニ適當テアルトイ
フ見解ニ於テ余ハ一千八百九十七年五月四日ノ
余ノ令旨ヲ再ヒ婦人社會ニ呈スルノテアル多
クノ場處ニ此ノ博愛事業ハ首尾ヨク始メラレ
タ併シナカラ不幸ノ最多イ所ニハ資本カ多
クハ欠乏シテアルモノテアル斯クノ如キ所ニ於テ
唯共同ノ事業ニ依ツテ又共同ノ救助ニ依ツテ
ノ救済ニ得ル婦人社會カ何ヲ仕ナケレハナ
ラヌカハ余ノ保護ノ下ニアツテ信仰ニ基キ

専ら一般ノ人類ノ目的ヲ遂行スル愛國婦人
會カ示シテ居ル、吾々ノ新教寺院ニ於テハ新
教婦人ノミカ宗教上及風教上ノ目的ノ為メニ
吾々ノ全祖國ノ為メニ共同事業ニ團結スル
トイフカ如キ連絡ヲ欠イテ居ル
吾カ寺院カ如何ニ多クノ重大ナル而カモ責任
ノアル任務ヲ遂行シ又遂行シ能フカハ「エルサ
レム」ニ於テ特ニ目撃シ感シテ居ル殊ニ余ハ
其ノ所ニ於テ貧民、遺棄セラルレタル者、不幸
者、病人ニ對スル犠牲的、實用的ノ平穩ナ
博愛事業カ迷信者及冷酷ナル者ヲ新教
ニ接近セシムルニハ最モ適當ナルモノデアルト
イフコトヲ事新ラシク感シタ

余ハ夫レ故ニ新教寺院救濟會ノ特選委員
會カヲ作ラシタル婦人救濟ノ組織ニ對スル計
畫ヲ余ノ正當ナル感謝及活潑ナル興味ヲ以テ
歡迎シ其ノ實行ニ衷心ヨリ援助及神ノ幸福
ヲ望ム一千八百九十九年一月一日「ボツダム」ニ於
テ「アウグステー」ヲ刊トリア

今ヤ全國ニ亘リ事業ニ着手セラル「サマリヤ」
人ノ事業ヲ始メタ、人々カ同情ニ鋭クナツタ眼ヲ以
テ視察シ又ハ慈善ニ滿ケタル心ヲ以テ實行シテ
行ツタ時ニ不幸カ如何ニ廣汎テ如何ニ深クアルカ
ヲ更ニ知ツタ、托児院、幼稚園ニ於ケル十児及職
業學校、家庭學校ニ於テ尚為スベキ多クノ事
業カアリ又洗禮ヲ受ケタ子供殊ニ少女會、料

理學校ニ於ケル少女ニ對シ必要ナル保護ノ事業
カ如何ニ多クアリ又零落者及迷兒ニ對スル救濟
的ノ事業カ如何ニ多ク有ルカヲ知ツタ 離散シタ
ル市民ヲ再ビ集メルトイフコトハ日曜ニ寺院ニ
於テ行ハレルハカリテナク又平日ニモ公會堂ニ於
テ行ハレタ一方ニ於テ病弱者ヲ助ケルトイフコトカ
行ハレ他方ニ於テ又貧民及不幸者ハ世人ヨリ忘レ
ラレモシナイシ又世間カ棄テ、モ置カヌトイフ自
覺ヲ之レ等ノ者ニ與ヘルコトニ心配ヲシナケレバナラ
ナカツタ今日著シクナツテオル貧富ノ懸隔貴賤
ノ別ヲ無クスルコトニ真面目デアアル博愛事業カ
行ハレテオル、又貫ツタ者ハ與ヘタ者ノ手ヨリ愛ノ
心ノ打撃ヲ感スルカウ貫フ者ハ幸福デアルトイフ

コト及與ヘルノハ吾々ノ為メニ自ラ犧牲ニナル人ノ為メ
ニスルノテアルカラ貫フヨリ幸福デアルト云フコトハ
人々一般ニ知ラ居ル所デアル
婦人救濟會ハ都鄙ノ區別ナク設立セラルシ其ノ主
要ナル任務ト目スヘキハ地方的ノ災禍ヲ豫防ス
ルニアツテ自治團體ニ在住スルモノ、凡テノ者ニ對
シテ會員自身ニテ事業ヲ遂行シタ夫レ故ニ
凡テノ團體ニ於テ會員自カラ人カラ人ニ博愛ヲ
實行スル様ニ用意セラレテ居ルコトニナル此ノ目
的ハ到ル處努力セラレ多クハ其目的ヲ達セラレ
タ會員ハ慰藉シ 歡喜シ慰撫シ又ハ心身ヲ養ハ
シムル為メ自ラ貧民病者、孤獨者、遺棄セラレ
タル者悲ムテ居ル者零落シテオル者等ヲ尋ネ
ラレ、ナク精神ニアル此ノ事業ヲ「ナクリスト」

ノ愛ヨリ迫ラレテ常ニ「クリスト」ヲ最モ好キ救
濟者トシテ指示シタ而シテ又會員ハ言行ノ上ヨ
リ新教ヲ説教シ災禍ヲ蒙リタル者ニ對スル
事業ニ於テ新教寺院ノ為メ救濟ノ團體タラシ
ト欲シタ

土地ノ異ルニ從ツテ災禍ハ勿論大ニ差ワテオルモノデ
アワテ其災禍ノ範圍モ種類モ共ニ異ルモノデア
ル例ハ都市ト地方ト工場地ト農業地ト其ノ
災禍ノ種類ト範圍ヲ異ニスルカ如キテアル「シエ
シエ」ノ機業地ノ災禍ハ「ウエー」スト「ファー」レ
山地ノ災禍ト異ル從テ多數ノ婦人救濟會ハ其管
轄地域ニ現ハレル災害ヲ充分ニ豫防スル為メニ
ハ會員自身ノ活動以外ニモ「ト」異ツタ有カナ

手段ヲ撰マナケレハナラナカフタコトハ勿論デア
吾人ハ斯ノ如キ地方的ノ災禍及會ノ實行スル
博愛事業ニ付キテ一二記載シテ見ヨウト思フ「
シエ」ル「シエ」ノ「サナ」鑛夫町「ゴ」テスベルグ「ニア
リテハ殊ニ小兒ノ中ニ病弱者ノ多イ為メ婦人救
濟會ハ小兒院ヲ設立シ病弱ノ小兒ヲ收容シ
保護シタ設立シテヨリ二年間ニ於テ九十六人ノ
病者ハ小兒院ノ恩惠ヲ受ケタ而シテ「間」モナク
小兒院ハ多クノ不幸者ヲ救助シタ為メ病院ノ
一種トナツタ

「スペイン」カウ「レ」ニ於テハ小兒病院カ近所ニ存在シ
テオルカラ病兒ニ對シテ他ノ異ツタ方法ニテ保護ヲ
與ヘタ此ノ地方ニ於テハ工夫及工女ノ小兒ハ殆んど

終日監督ナシニ放任セラルト云フカ如キ不幸カ
アツタ婦人救済會ハ此等ノ小兒ヲ初メ借地下室
ニ集メタカ間モナク狹隘ヲ感シタカラ此ノ事業ノ
為メ本部ヲ建テル計畫ヲ立ツタ建設地ハ寄附
セラレ「スパンタウ」ノ町ト官衙ハ進ンデ此ノ舉ニ
賛成シ皇帝陛下カ四萬四千マール支出ノ裁可
ヲ與ヘタトキ建築ハ安固トナツタ今日ニハ皇
帝「ウヰルヘルム」二世太陽園ト稱シ「スパンタウ」ニ
於テ婦人救済會及其被保護者ノ為メ本部ト
シテ建設セラレタモノ即ケコレアル此ノ太陽園ハ
乳兒院トシテ幼稚園トシテ又小兒及少女ノ避
難所トシテ生後十四日ヨリ十四歳ニ至ル迄ノ救
助ヲ必要トスル小兒ヲ收容シ得ル丈ケノ廣裏ヲ

有シ又此ノ分院トシテ十六歳以上十八歳迄ノ孤兒
院カアル料理及家庭學校ハ一年ノ講習ニ於テ
三十人カラ四十人マテノ両親ノ家ヨリ通學スル少
女ヲ收容シ専ラ家政上ノ教育ヲ施シ行_ル
地方ニ於テハ小兒學校ノ制度カ監督者ナク_{シテ}排
徊スル小兒ヲ救助シタ大都市殊ニ伯林ニ於テ
婦人救済會ノ解決スヘキ從テ全カヲ盡サナケレハ
ナラナイ多クノ問題カアツタ「オーテル」河沿岸
ノ「フランクフルト」ニ於テハ既ニ一千八百九十九年ニ婦
人救済會ヲ組織シタ此ノ市ハ市内ニ六萬ノ住民
郊外ニ九千ノ職工ヲ有シ寺院ノ設備ナク為スヘキ
多クノ事業カアツタ皇后陛下ノ著眼ハ先ヅ第
一ニ常ニ小兒テアツタ「フランクフルト」ノ小兒院

ハコルテル家ノ財團新教看護婦場ニアツタ
皇后陛下下同所ニ行啓ニナワタトキニハ勿論非
常ナ歡喜ニ満テ居ワタ吾人ハ屢々陛下ノ行
啓ニ遭遇シタカ陛下ハ先ツ慈善事業ノ行ハル
場所殊ニ小児院ニ行啓ニナルコトヲ怠ツタコ
トハナカワタ之レハ小児ニ陛下ノ赤心ヲ披瀝スルト
キ偽リノナイ眞實ノ言葉ヲ聞クコトヲ常ニ知ラ
テ居ワタカラテアル

多クノ地方ニ能クアル不幸ノ一ツハ少女ガ手助ケノ
為メ洗禮後直ニ農工業等ニ従事シ夫レカ為メ
屢々家庭ニ働クノ機會ヲ失フコトアル家政上ノ
知識ヲ缺イテ結婚ヲスルカラ從テ一家ヲ齊ヘ其ノ
團欒ヲ計リ廢物ヲ利用シ又ハ日常ノ生活ニ屬ス

ヘキモノヲ計上スルコトスラ譯ラナカワタ又時トシ
テハ料理裁縫補綴大慰斗掛ケ等ノ最モ必要ナ
ル家政上ノ知識スラモ欠乏シテオツタ此ノ結果
忽々若夫婦ノ不滿又ハ喧嘩ヲ来タシ主人ハ自宅
ヲ避ケテ料理屋ニ出入スル様ニナル此ニ於テカ一ニノ
婦人救済會ハ大ニ効果アルモノトシテ巡回料理講習
ノ制度ニ依リテ此ノ弊ヲ豫防的ニ救済セシコトヲ
努メタ巡回料理講習會ハ休暇時間ニ少女ヲ集
メ之ニ家政ノ一切ノ科目ヲ正則ニ教授スルモノテアル
コレレガエシレノコトウ井シエツツニ於テハ牧師ノ妻女
及其ノ所ノ婦人救済會ノ指導ノ下ニ此種ノ料理
學校が起ツタ國家ノ檢定ヲ經タル一人ノ家庭
教師ガ任命セラレ田舎ノ二十人ノ娘カ女學生ト為

リニ講習ヲ經テハ週間ヲ通シテ教授セラルル此
初メテノ制度ノ為メ皇帝陛下ハ御手元金ノ中ヨリ
婦人救濟會ニ巨額ノ御下賜金カアツタ此ノ制度
ノ効果ハ直々ニ現ハレ次第次第ニ流行シ地方ニ普
及シタ又多クノ都市ニアリテハ婦人救濟會ハ家
政學校ヲ設立シ終日工場ニ於テ働イテ居ル少女ヲ
休暇時間ニ集メテ家政ノ處置方ヲ教授シタ斯
クシテ「ライシ」地方ノ「レイド」ニ於ケル家政學
校ハ大ニ繁榮シタモノトアル此ノ「レイド」ノ家政學
校ハ他ノ都市ニ於ケルト同シク又「サマリヤ」風ノ
講習ヲ其教案ニ採用シ病氣及其他ノ不幸ノ場
合ニ於ケル救濟ヲ指導シタ婦人救濟會カ斯ノ
如キ事業ヲ遂行スルノモ其最終ノ目的ハ常に

少女ニ智識ト技能ヲ賦與スルノミナラス家政的
ニ少女ヲ教育スルニアル換言スレバ少女等ヲシテ
眞實ナル基督教的家庭ノ精神ト本質トヲ了
解セシムルニアルノデアル

東「プロイセ」ノ山海ニ富ミタル「マツレー」地
方ニ於ケル一市「ヨハニスブルグ」ニ於テハ婦人救
濟會ハ更ニ他ノ不幸ニ對シ救濟ノ態度ヲ取ツ
タ田舎ノ者カ平日其ノ産物ヲ販賣スル為メ市
ニ來ルトキ彼等ノ間ニ怖ルヘキ飲酒癖カ行ハレ
タアラユル忠告ハ何等ノ効果モナイ、正直ナ田
舎者カ寒暑ト渴望ノ為メ飲酒癖ニ染マルモ
強ク責ムヘキコトモナイ許シテヤラナケレハナ
ラヌソコテ婦人救濟會ハ一案ヲ講シ珈琲車ヲ

製造し市日ニ其ノ内ニ於テパン付ノ熟イ珈琲
ヲ一杯十銭ワ、ニテ賣ラシメタ、成績ハ非常ニ好
カツタ婦人救済會ノ珈琲車カラ二百人前以上ノ
珈琲ガ賣レタコトハ敢テ珍ラシクナカッタ

各婦人救済會ガ如何ニ活動シタカハ各々ノ新教
寺院救済會ヨリ行ハレタ多クノ會員總會ガ示
シテ居ル此ノ婦人救済及其他ノ施設ノ為メ各會
ハ夫レ夫レ本部ヲ必要トシタソコデ各會ハ公會
堂ノ建設ニ贊助スルカ否ラサレハ自ラ建築ス
ヘシトノ問題ヲ多クノ地方ニ提出シタ自ラ其ノ
本部ヲ建築シタ例ハ「フランクフルト」ノ婦人
救済會ニアル凡テノ婦人救済會ガ大キナ組合
ヲ作ツテ更ニ其支部ヲ設置スルハ大ニ必要ナコ

トテアル此等支部ノ會合ハ支部相互ノ對談融
合及激勵ヲナスノ好機會ヲ與フルモノテアル又
皇后陛下ハ毎年一回此ノ組合ノ大總會ニ御臺
臨アラセラル新教寺院救済會ノ事業ノ發展
ニ付テ報告セシムルコトヲ怠ラナカッタ而シテ陛
下ハ津々々ル興味ヲ以テ事件ヲ處理シ詳細ナル
報告ノ中ニ將來向フ所ヲ定メラレタ

時代ノ推移スルニ從ヒ又カ、組合ノ共同事業ガ始
メラレタ此等ノ共同事業中最効果ノ著シクア
ツタモノハ婦人救済會ノ「ライオン」州組合ノ設置
テアツテ此等ノ地方ニ於ケル看護ノ為メ篤志看
護婦ノ組織ヲ起シ、我ガ兩陛下ノ銀婚式ニ方
リ「バルメン」ニ「アウグステー」ニ「ブキ」トリア「院」ヲ建

設スルニ至ツタ此ノ建物ハ銀婚式ノ當日開院式ヲ
行ハセラシタ唯一ノモノデアラフ「ライ」地方ニ於ケル
婦人救済會ノ本部テアル此ノ内ニハ前陳ノ講習生
カ講習ノ期間寄宿シテ教授ヲ受ケ又州ノ婦人
救済會ノ説教師モ此ノ内ニ居住シテオル故ニ州
ノ組合ノ本部トイフベキテアル寺院ト相提携シテ
活動スル婦人ノ博愛事業ヲ其ノ生命トスル婦人
救済會ハ時代ノ要求スル色々ナ弊害ニヨリテ更ニ
他ノ任務ヲ附與セラル、カウ婦人救済會組合ノ
主要ナル任務ハ金錢ノ徵集又ハ施設物ノ建築
等テハナラシテ各婦人救済會ヲ激励スルコトヲ
主眼スルモノナリトイフヲ適當ナリト信ス併シ
ナカラ寺院救済會ノ組合ハ同會ヨリ煩雜ナル

各種ノ形式制限ヲ驅逐シタト同レ様ニ不幸ノ有
ル所ヨリ他ノ手段ヲ以テ不幸ヲ除去シタ例ハバ
「ポーゼン」ノ「ゲスポーラー」地方ニ在リテハ異教
徒間ニ於ケル老弱ナル獨身者ノ困苦ハ實ニ非
常デアツタ此ノ恐シイ廣汎ナ宗教區ニハ新教ノ
説教師スラモ此ノ便り無キ者ヲ訪子テ行クコト
ハ極メテ稀デアツタ甚レ故ニ婦人救済會ノ州ノ
組合ハ其ノ中ヨリ特別ノ委員ヲ任命シ「リッ」
ノ「ウォルフスキルヒ」ニ於テ州ヨリノ老弱者ヲ一
生涯保護スル養育院ヲ建築セシトシ一千九百四
年六月二十三日開院式ヲ擧ケテラレ四十年来盲
目テアル百二歳ノ老弱者ガ初メテ此所ニ收容セ
ラレタ「コーブルク」ニ於テモ寺院救済會ノ養

育院ハ同様ノ目的ヲ模倣セラルレ同所ノ婦人
救濟會ハ老病者ノ看護事業ヲ特別ニ施設
物ノ内ニ於テ行フ為メ之カ費用トシテ篤志家
ヨリ五萬マールノ資金ノ寄附ヲ受ケタ而シテ
寺院救濟會ハ長ク躊躇スルコト無ク進ンテ建
築ヲ實行シ其ノ共同的施設物ト適當ナル保
護ニヨリ孤獨又ハ救助無キ為メ困窮ヲ感シテ
居ル病弱者ガ其ノ内ニ收容セラルシ夕此ノ新ニキ
養育院ハ立派ニ建築物ナル其ノ會堂ニハ
其ノ地ノ婦人救濟會ノ會員ガ手藝ノ為メ常ニ
集リ禮拜ヲ行フテ居ル。余ハ之レヨリ西陛下ノ銀
婚式ニ於テ「東プロイセル」ノ婦人救濟會ガ建テ
タル東海岸ノ閑靜ナ温泉地「ノイターレ」ニ

於ケル「アウグスト」ニ於テ述ベヨウ
ト思フ、之レハ貧シキ婦女少女ニ對シ身神ノ休
養ト快樂トヲ與ヘル為ニ出来テ居ルモノナル
此ノ画ハ上ニ述ヘタ婦人救濟會ノ事業ニ付テノ
「アウグスト」ニ於テ述ベタル「院」ノ圖ナル此ノ圖ヲ
見ルトキハ事業ガ如何ニ多方面ニ發展シ又濃
艶ナル寄セ木細工ノ画ガ如何ニ組織的婦人救
濟會ノ全体ノ形ヲ示シテ居ルカハ窺ハレル而シ
テ其ノ内ニアル色ノ付イテ居ル石片ハ各會ノ寄
附ニ係リ其ノ石ノ中央ニハ救世主ノ尊影ガアツ
テ天國ノ愛ナル金色ノ粘土ヲ以テ全身ヲ覆ヒ
調和ヲ與ヘテ居ル
皇后陛下ガ其ノ發起ニ係ル婦人救濟會ノ各會

ノ事業ヲ盡キサル興味ヲ以テ如何ニ指導シテ行
ツタカハ特ニ産婦ノ保護ヲ目的トシテオトルコソ
トフスノ婦人救済會ニ與ヘタクリスマスノ贈物
テワカワテオトル伯爵皇后宮夫人「プロウツ
ドルフ」ハ一千九百年ノクリスマス祭ニ於テ「コソト
フス」ノ婦人救済會ニ報告シテ陛下ハ同會ノ為
メ洗禮用覆掛ヲ手ツカラ精巧ニ製作シ夫レ
ヲ胎児及會ノ保護ヲ受ケテオル者ノ洗禮ニ使
用スル為メ同會ニ贈ラレタト言ハレタ

皇后陛下ハ國民ヲ愛スルコトニ向ツテ鋭クナツ
テオトル眼ヲ以テ自カラ各種ノ困苦ヲ視察シ之カ
廢絶ヲ奨励シタ皇后陛下カ伯林市ノ内職
博覽會ニ行啓セラレ内職ヲシテ居ル者甚シカ如

何ニ困難ナル事情ノ下ニ働イテ居ルカ又如何ニ
低廉ノ報酬ヲ受ケテオルカラ目撃シタトキニ徒
末蔑視セラレタ社會階級ノ放任セラレ又救助ヲ
失ツテオトル所ニ非常ニ感動シ直チニ茲ニ自ラ活動
ス(キ)救済事業ノ廣キ原野ガアルコトニ氣付キ而
シテ一千九百六年五月四日ノ手書ニヨリテ新ニキ任務
トシテ内職保護ニ付キ婦人救済會ニ注意スル所
ガアツタ

新教寺院救済會婦人救済部ノ幸福デアツタ
十五年間ノ事業ヲ追懷スルトキハ同會ノ主要ノ
任務ハ新教ニ基キ且我が神及救世主ノ意ヲ承ケ
テ婦人自カラ博愛事業ニ携ハリ又ハ従事スルニ
アルコトヲ自カラ認識シテ事業ヲ創メ之ニ従事

シタノテアウテ其ノ事業ニ付キテ社會ノ階級力
之ニ助力スルコト廣キニ從テ益々人々ノ身神ノ困
苦ヲ減シ愛ト媾和ノ幸福ヲ得ラレル譯デア
ル。特ニ我が~~國~~護婦ノ多大ナル幸福ヲ活動ニ依リテ
大ニ其ノ任務ヲ遂行セラレタルニモ拘ラス尙勞
働者階級ノ困難不幸ニ付キテハ婦人少女等ノ
自カラ活動スヘキ事業ノ廣キ原野カアル、自身カ
不幸ノ知已トナルニ從ヒ初メテ不幸ノ及ンテオ
ル範圍ヲ知ルコトカ出来ルモノデア
ル。絶スルニ他ノ愛ヨリモ一層効果ノアル愛ハ活
淡ニ神ト媾和スル愛デアウテ救済ハ此ノ種ノ愛ノ義務デア
ル。此ノ外余ハ尙特ニ内職ヲ善イト思フ内職ハ之
ニ依リテ最モ弘ク救済ヲ爲シ又婦人救済會カ

婦人ニ最モ高尚ニシテ且立派ナ職業ヲ具ヘル譯テ
自カラ誠實ニ職ニ就クモノ、救多ク不幸ヲ輕減
シ纏マツタ救済ヲ爲シ真ノ慰藉ト充分ナ愛ヲ與
ヘルモノデア
ル。一千九百零六年五月四日上ホ
ンブルグニ
於テ「アウグステー、フ
ンクトリア」

婦人救済會ハ高貴ナル保護者ノ獎勵ニ從ヒ救多
ク不幸ノアル地方ニ内職ヲ初メサセタ
ル。一千九百零七年「ハ
ール、ピンノー」氏が新教寺院救済會ノ總會ノ席
上ニ於テ報告シタ所ニヨレバ同氏ノ詳細ニ取調
ラシメ
タ結果伯林カケテ内職婦人ハ約十四萬人アルト云フ
コトデア
ル。茲ニ不幸ヲ絶滅スル爲メナサレタル諸計
畫ヲ掲ケテ見レハ同情的慰問、巡回料理講習會、
獨身者ノ結婚ノ周旋、療養所ノ療養ヲ要スル者

ノ世話、職業案内等テアル、備局者ハ熱心ニ事業
ヲ進メ、一千九百八年三月伯林ニ職業紹介所ヲ設立シ
今年七月「テルトール」郡ノ「ハイホーフ」ト云フ所ニ
労働者階級ノ婦人及少女ノ為メ療養所ヲ開設シ
保護者タル陛下ノ名ヲ付シ「アウグステー」ト云フ所ニア
療養所ト稱セラレタ

新教寺院救済會ノ事業ハ益々發展シ、備初定メタル
地域ヲ越エ專ラ首府及工業地ヲ目的トシタル事
業ヲ更ニ地方ニ及ホセントシタ、一千九百七年「ポーゼン」
出身宗務監督總長「デー、ヘーセキール」ハ皇太后陛
下、聖臨ノ總會ノ席上ニ於テ普ク都鄙ニ於ケル説
教及精神修養ニ関スル一場ノ報告ヲ試ミラレタ、其
ノ報告スル所ニ依リハ廣キ地方ニアリテハ二方哩又ハ三

方哩ノ間ニ五十ヶ所又ハ五十ヶ所以上ニ涉リ、散在居
住スル地方民ニ説教ヲスル為メ出張スル必要ノアルコト
カアル、而カモ此ノ場合ニ最モ忠實ナ最モ有力ナ説教
師テモ全ク欠莫ノナキコトヲ期スルハ不可能デア
ル、夫レ故地方ニ於ケル牧師ノ説教ハ大都市ノ市傳
道ニ依リテ欠点ヲ補ハナケレバナラヌノデア
ル、夫レ故
一千九百八年七月一日「ポーゼン」ニ始メテ地方傳道師
ノ第一養成所ヲ開カレタ

新教寺院救済會ト其ノ婦人救済會ハ其ノ事業區
域ヲ擴張シ更ラニ新地域ヲ獲得セントシタ、此等ノ
會ガ其ノ事業ヲ健續シ更ニ發展セントスルニハ一言ニ
テ言ハバ大活動ヲ必要トスルノアル會ノ奏行スル年
報獨逸ノ家庭ニ有益ナ談話ヤ人智ノ各方面ニ涉

ル多クノ論文ヲ掲載シ會ノ目的ヲ裨益スルコト少
クナカツタ、年報ハ出版僅カ一二年ニシテ多數ノ讀
者ヲ得約十三萬部ヲ發行スル様ニナツタ婦人救
濟部ノ雜誌ハ月刊ニシテ新教區内ニ於テ婦人ノ手ニ
依リテ行ハル、博愛事業ヲ指導シ又ハ盡カスル人々
ヲ裨益スル目的テアツテ然ラ、不幸ニ付テノ救濟ニ干
スル根本的ノ箇條、婦人ノ博愛事業ノ狀況、婦人救
濟ノ事業報告等ヲ掲載シテ居ル、基督教婦人
社會ノ使命ト云フ雜誌モツマリハ博愛事業ヲ裨
益スル目的テアルカ其ノ觀察点廣汎ニ涉ルヲ以テ其
内容モ亦種々雜多テアル其ノ掲載事項ハ婦人ノ博
愛事業ニ關スル説明又ハ談話、医事問答、家庭、
兒童教育等テアル其日曜附録トシテ服装ト手

藝ト題スル雜誌ヲ發行シ裁縫洗濯手藝等ノ
事項ヲ掲載シ又小児室ト云フ雜誌ヲ發行シ家庭
ノ小児ニアラユル刺激ト産業ヲ與ヘタ、基督教婦人
界ノ使命ト云フ雜誌ハ一萬四千以上ノ家庭ノ伴侶
トナツタ又會ノ書物ノ出版事業モ亦年々盛大ニ
趣イタ

新教寺院救濟會ハコプロイセシレノ全州ニ涉リ其ノ
組織ヲ擴張シタタノ州ニ於テハ會ヨリ特ニ僧侶ヲ
任命セラシタ、婦人救濟會ハ一千九百三年ニハ其ノ數
六百十一、千九百五年ニハ其ノ數一千四百五十以上ニ増加
シタ
新教婦人救濟會ノ特選委員會ニハ每週會員日
リ或ハ任命ニ關シ或ハ總テノ施設物ノ建設ニ關スル

願書が提出サレテオツタ、新教婦人救済會が従
來爲シツ、アル事業及以前ヨリ爲スヘキ義務ノ
アル事業ニ資金ノ必要アルトコロヨリ財源ニ乏シキ
宗教區ノ事業施設ヲ保護スル爲メ皇后基金
ヲ設定シタ、皇后基金ヘノ寄附ハ全ク任意ナレド
モ多クノ婦人救済會ハ贊助金ヲ支出シタ之レハ贊
助金ヲ提供シテ比較的資金ノ欠乏シテアル宗教區
ノ事業施設ヲ励マシタノテアル、婦人救済會ノ宣言
書ノ終ハ次ノ文言ヲ結レテアル

新教ノ婦人及少女諸子、寺院ノ神ハ諸子ヲ呼ビ
且其ノ公ニシタル意思ヲ遂行セシコトヲ要求シ
テアル 皇后陛下ハ救世主ノ意ヲ承ケ赫々タル模
範ヲ示シテ眞實ノ愛ト慈善ノ實行ニ關シ諸

子ヲ導ク、諸子ハ宗教區ノ區民ヲ裨益スルコトニ
盡粹シ且愛ト慈善事業ニ同心協力セヨ斯クノ
如クスルトキハ我獨逸基督教國民ノ幸福ノ爲メ婦
人救済會ノ事業ヨリ数多ノ高價ナル幸福ノ果
實が生ルノテアル。

萬ノ増加アリタルニ拘ハラズ寺院ノ數ハ依然トシ
テ年々僅ニ一棟宛ノ増加アリタルニ過キナンダカ
ラテアル。新教寺院救濟會ガ初メテ事業ニ著
手シタ頃ニ伯林市ノ宗教上ノ頽廢ヲ救済スル
人々ハ此處ニモ彼處ニモ集リ獨逸諸州殊ニライ
ン地方及西部地方ノ諸州ヨリハ各州ハ須ラク首府ニ
於テハ各々一寺院ヲ建立シ之ニ各々其ノ同郷人ヲ集
メ以テ郷里ノ寺院ト連絡ヲ取ルヘシトノ勸告カ傳
ヘラレタ。此ノ考案ハ誠ニ立派ナレドモ其ノ實行ニ
於テ幾多ノ困難ヲ生シ更ニ他ノ方法ヲ選擇セナ
ケレバナラヌト云フ意見ヲ有スル者ヲ生スルニ至ツタ。
一千八百八十九年三月二十二日新教寺院救濟會ノ總
會ニ際シ「ライン州」ノ代表者カ伯林市外ニ貧民ノ

為メ一寺院ヲ建築スル費用トシテ皇后陛下ニ
伯林ノ宮城ニ於テ二萬マールクヲ提供シタルニ皇后
陛下ハ之ヲ受納セラレ直々ニ同一ノ金額ヲ之ニ寄
附添加セラレタ。其ノ後神ノ督励ニ依リ多クノ敬神
尊王ノ人々出テ續々此ノ例ニ倣ヒ二三週間ニ忽ニシ
テ十五萬マールクノ寄附金ガ計上セラレタ。而シテ特
ニ此ニ述ベナケレバナラヌノハ新教寺院救濟會ガ自
ラ集メタ資本 ~~限~~ 伯林市ノ寺院建築ノ為メニハ
タツタ一錢ヲモ支出セナカウタコトト。尚モウ一ツハ新
教寺院救濟會ノ督励ニ依リ後ニ創立セラレタル
寺院建築會ガ獨逸ノ各州ヨリ同會ニ寄附セラ
レタル金額ヨリモ遙カニ ~~多~~ 金額ヲ寺院建築費
補助 ~~金~~ 金トシテ更ニ各州ニ配送シタルコトノニツテアル。

寺院建築會ハ其ノ資本ヲ過半伯林ヨリ得テ居ル。同會々長デ皇后宮大夫タル男爵ノミルバツハト云フ人カ伯林ノ富豪等ヲ説得シテ宗教上ノ目的ノ為メニ大ナル犧牲ヲ拂フ様ニシタノハ同氏ノ大ナル功績ニシテ記憶スヘキコトデアアル。

泉ガ初メテ巖壁ヲ破ツタ時ニハ泉水ハ面白ク程噴キ出テルモノデヤカテ小川ニナツテ他ノ泉ノ流水ト合シ遂ニ大河トナルモノデアアル。皇后陛下ハ其ノ督励ニ係ル寺院建築ノ實行ヲバ新教寺院救濟會ノ幹部ニ委任シ該幹部ハ更ニ建築委員會ヲ組織シ第一著ニ如何ナル地方ニ寺院ヲ建築スヘキカヲ協議シタ。其ノ結果第一ニルメルスブルグノ郊外ト伯林市ノエリザベス區ニ寺院ヲ建築スルコトトナツ

タノデアアル。一千八百八十九年ノ九月二十二日ニ皇后陛下ハ宗教廳ニ次ノ御書ヲ賜ハツタ。

余ハ皇帝陛下ノ勅許ヲ得テ此ノ際ニツノ寺院ノ建築即一ツハルメルスブルグ一ツハエリザベス區ニ於ケル寺院建築ノ補助ノ為メ曾テ余ニ寺院建築ノ目的ヲ以テ委託セラレタル金額ヲ支出シ余ノ年來ノ計畫ヲ實行スルコトニ決定シタルコトヲ茲ニ宗教廳ニ告知ス。宗教管區リヒテンベルグニ於ケル宗教ノ頽廢殊ニ甚シキニ付テハ明春早々ルメルスブルグニ寺院ノ建築ヲ開始シ得ル様ニ直クニ其ノ準備ニ著手スルコトハ皇帝陛下並ニ余ノ切ニ希望スル所デアアル。夫レ故ニ余ハ之ニ必要ナル準備手段ヲ為ス

様ニ宗教廳ニ望ム。余ハ此ノ外ニ尚皇后宮大
夫男爵「シルバツハ」ニ此ニ必要ナル所置ヲ委託
シタ。而シテ特ニ余ハ伯林市廳ノ盡力ニ依リ寺
院建設地問題ヲ都合ヨク解決スルコト。並ニ
伯林市ノ郊外ニ住メル貧シイ勞働者共ガ色
々ナ方法ヲ便ウテ行ク伯林ノ富豪ナ●市民
ニ於テ之レ等ノ勞働者ノ宗教上ノ墮落ヲ救
済スル為メニ貢獻スヘキコトハ其ノ義務デア
ルモノト心得ンコトヲ願フノデア
ル。又余ハ此ノ機
會ニ於テ伯林ノ宗教管區ノ區劃ヲ変更ス
ルコトノ明カナル必要ガ直ニ之ヲ調査スヘキコ
トヲ余ニ申出デテ居ルモノノ如ク見ユルコトヲ
述ベズニハ居ラレナイノデア
ル。皇后王妃アウグ

ストフ#クトリア。

同時ニ皇后ハ又他ノ御書ノ中ニ伯林多数ノ富裕ナ
●市民ニ寺院建築ノ為メ附加税ヲ課セムコトヲ提
議シテオ
ル。

ルーメルスブルグノ郊外ニ於ケル宗教ノ頽廢ハ最モ甚
シク其ノ郊外ニ於ケル住民ハ十萬ト稱セラル。其ノ大
部分ハ勞働者ノ階級ニ屬スベキモノデア
ル。此等ノ住
民ハ一人ノ僧侶ヲモ一ツノ寺院ヲモ持ツテ居ラヌノミ
ナラス。此處ヨリ遙カ隔ツテ居ル「リヒテンベルグ」ノ宗教
管區ヨリ監督セラレテ居ツタ。而シテ寺院ノ建築ヲ
妨害スル~~年~~困難ハ宗教上ノ頽廢ト同様又最モ
甚シカワタノデア
ル。然シナカラ皇后陛下ノ御心ハ此ノ
事業ニ對シテ熱心デア
ツテ。自ラ此ノ事業ニ關係

シテ専ラ妨害ノ排除ニ努メラレタ。之レカ為メニ寺院建築ニ必要ナル資本ヲ提供スル多クノ金庫ハ開カレ又多クノ人々ハ盡カセラレタ。一千八百九十年ノ三月四日ニ皇后陛下御臺臨ノ下ニルメルスブルグ救世主寺院ノ土臺カ据付ケラレタ。此ノ時皇后陛下ヨリ賜ハリタル建築書ハ次ノ文言ヨリ書キ初メラレテアツタ。

神ノ名父ノ名ニ於テ子即基督ノ名ニ於テ又聖靈ノ名ニ於テ告白ス余ハ伯林市ノ内外カ僧侶及寺院ニ欠乏スル為メ近年急激増加スル新教國民ニ對シ十分ナル精神教育ヲ與フコト能ハサルヲ目撃スルハ余ノ衷心ヨリ痛嘆スル所デアアル。此ノ大ナル宗教上並ニ精神上ノ頽廢

ニ付テハ余ハ余ノ力ノ及フタケ救済ヲ為シ又ハ廣ク社會ニ救済ヲ督励スル様ニ神及人ノ盡力ニ信賴セムト決心シタ云々。

又此ノ文書ノ結尾ハ立派ナル告白文ニシテ次ノコトカ書イテアル。

本日莊嚴ナル土臺据付ノ式カ行ハル、ニ當リ余ハ皇帝陛下ノ最高ノ勅許ヲ得テ此ノ寺院ニ救世主寺院ナル名前ヲ與ヘルコトニシタ。カ、ル名前ヲ付シタル所以ハイエスキリスト即我々救世主ノ新教カ此ノ寺院内ニ於テ常ニ聲高ク又清ラカニ説教セラレムコトヲ望ミ又神聖ナル聖禮カ此ノ寺院内ニ嚴肅ニ行ハレムコトヲ望ミ且最モ神聖ナル我々ノ信仰ニ基キテ

總テ救世ニ必要ナル精神ニ神聖ナル聖靈ノ
力ヲ賦與セラル、ニ至ラムコトヲ望ムノ趣意
テアル。此ノ意味ニ於テ余ハ寺院建築、此ノ事
業ヲ創メタノデアツテ、而シテ余ハ此ノ建築書ヲ
土臺ノ中ニ收メ、同時ニ之ニ由リテ余ガ神ノ為メ
ニ屈從シ總テノ行為ヲ捧ゲルコトヲ辞セヌト
云フコトヲ後世ニ示ソウト思フ。又此ノ書面ハ一
千八百九十年三月四日即新教寺院救済會ノ
保護者タルコトヲ承諾シタル第二回紀念日
ニ於テ作ラレタモノデアアル。獨逸皇后プロイセン
王妃アウグストフキクトリア云々。
皇后陛下ノ御道筋ハ往復共ニ凱旋行列ノ如
ク絶エズ熱誠ナル國民ノ歡聲ガ響イタソウシ

テ遙カナル彼方ニハ之ニ對スル陛下ノ目禮ト挨拶
トガ交換サレタ
一千八百九十年一月七日皇后アウグスタ「費去
シ」同月十一日「シヤルロツテンブルク」御陵ニ埋葬セ
ラレタ同月十二日ノ日曜日ニ皇帝及皇后陛下ハ
故皇后ノ為ニ紀念ノ禮拜ヲナサシメ為メ宮城内ノ
禮拜堂ニ参拝アリ其ノ時皇帝陛下ハ故皇
后ノ為メ紀念寺院ヲ建築スル費用トシテ十萬
マールクノ寄附金ヲ下付セラル、コトヲ皇后陛下
ニ約束セラレ後更ニ三十萬マールクノ恩賜金ヲ
之ニ付ケ加ヘタ斯クシテ短期間内ニ皇后陛下ノ保
下ニアル建築事業ノ第一回トシテノ三寺院建築
が始メラレタ事アル、

新教寺院救濟會ノ幹部ハ一千八百九十年ノ初ニ於
テ特別建築委員會ヲ創設シタ該委員會ハ
新銳ノ勇氣ヲ以テ事業ヲ進行シ是非共打克
タナケレハナラナイ幾多ノ困難ニ遭遇シ又各種
ノ攻撃ト猜疑ガ絶エズ起ツタニモ拘ラス兩陛下
ハ事業ニ奮進シ必要ナル場合ニハ効果アル博
愛的ノ處置ヲモ執ツタ之ガ為メ十年以來一般
ニ宗教上ノ事柄ニ就テハ極メテ冷淡ナリシ首府
伯林市ハ忽々活氣付キ數千人ノ人々ガ皇后陛下
ノ掲ケタル旗^{寺院建會}下ニ集^り而シテ總^て貴族ニ對シ
常ニ温情ヲ有シ又總テノ災害ニ對シテ慈善的
行動ヲ各マ^チリカルトフォンハルト翁ハ此ノ特別
建築委員會ノ會長ニ推薦セラレタ然レテ此ノ

特別建築委員會ハ其ノ成立後間モ無ク多數ノ
知名ノ人々ノ參加ニヨリテ^忽大キナモノトナツタ
世人ハ一般ニ之ニ對シテ偉大ナル責任ノ重イ而モ
亦有望ノ事業ヲ始メタモノデアルト云フ考ヲ持
ツタ此ノ偉大ナル共同の事業ハ宗教ト政治トノ
相互ノ援助ニ依リテ初メテ目的ヲ達スルモノナル
ヲ以テ茲ニ宗教ト政治ノ區別ハ消滅シ古ノ状態
ニ戻ツタノデアアル而シテ事業ヲ熱心ニ遂行スルニ從
ヒ人々ハ益々事業ノ範圍ガ如何ニ無限ニ大キク
又事業ノ必要ガ如何ニ無限ニ大ナルカヲ認識シ
タ而シテ當局者ハ新教寺院救濟會ノ資本金
ガ伯林ニ於ケル寺院建築ノ為メニ使用セララル、コ
トニ付テ或ハ不當ナル反對ノ聲ガ高クナルカモ

知レヌト云フ懸念カラ新教寺院救濟會ノ支
部トシテ此ノ事業ノ團體ヲ設立スルコトニ想到
セラレタガ然シ乍ラ寺院建築會ヲ設立スル趣
旨明確トナルニ從ヒ益々新教寺院救濟會ト相
並ンテ別個ノ團體トシテ寺院建築會ヲ起スヘキ
必要アルコトカ總テノ當局者ニ明カトナツタ
斯クテ一千八百九十年三月二日新教寺院救濟會ニ
於ケル從來ノ建築委員會ハ伯林ノ為メニ寺院
建築協會ヲ新設シ該會ノ幹部ハ以前既ニ新
教寺院建築委員會ニ委託セラレタルメルス
ブルクノ救世主寺院エリザベス区ノ耶蘇昇天寺
院及故皇后アウグスタ^ルノ紀念ノ為メ設立セラ
ルベキ慈善寺院ノ建築ヲ初メタ

一千八百九十年三月十五日皇后陛下ハ次ニ示ス手
書ニ依リ寺院建築協會ノ保護者ニ就任セラレ
タ

余ハ皇帝陛下ノ裁可ヲ經テ伯林ノ新教寺院
建築協會ノ保護者ニ就任シタルハ誠ニ欣喜
ニ堪エス而シテ余ハ此ノ際本會ニ依リ計畫セ
ラ^ルト^ル困難ナル而モ立派ナル事業ガ伯林
市ノ大ナル貧キ自治區ニ幸福ヲ與ヘ且宗教
上ノ頽廢ニ付テ永年渴望セル救濟ヲ為サ
ンコトヲ希望ス余ノ代理者トシテ本會々長
ニ皇后宮大夫「ミルハッハ男爵」ヲ任命シ一萬
マークノ金額ヲ本會ニ下附ス 皇后王妃
アウグスタ^ルヲ并クトリア

新設ノ寺院建築會ハ當初ヨリ大活動ヲ始メ伯林
市内及其ノ附近ニ於テ寺院建築ニ着手シタル
メルスブルグニ於テハ一千人ヲ收容シ得ル寺院ト牧
師ノ邸宅ヲ建設シ尚後ニ至リ之ニ棟ノ公開堂ノ
建増ヲシタ該公開堂ハ市民ノ集會所ニ充テ同時
ニ托児院幼稚園施療院ノ用ニ供シタ又皇后陛下
下ハ御手許金ヨリ牧師等ノ俸給額ヲ提供シ間モ
無ク市民ハ立派ナル此ノ公會堂ニ集合スルコトヲ得
タノデアル而シテ伯林市ノ北方「フンホルドタイン」ニ於テ
ハ昇天寺院ノ立派ナ塔ガ民家ノ上ニ高ク聳ヘ此レ
ヨリ程遠カラヌ所ニ其ノ後間モ無ク故皇后アウグ
スター「紀念」トシテ慈善寺院ガ建築セラレタ此レ
ハ新教寺院救濟會ノ指圖ノ下ニ出來シタモノデアル

此ノ外「インマニエ」ル寺院及「ザマリ」テル寺院ノ建築
及「フリー」テナウ「高等」牧師寺院ト伯林市ノ西方
ニ於ケル一寺院ノ建築モ新教寺院救濟會ニ於テ
提議シタモノデアル此ノ伯林市ノ西方ニ於ケル寺院ハ
後ニ「ウヰル」ヘルム皇帝紀念寺院ト稱セラレ、コトナ
ツタ

寺院建築會ハ初メ「ウヰル」ヘルム皇帝紀念寺院
ノ建築ヲ担係シ尚間モナク伯林市及其ノ郊外ニ
於ケル其ノ他ノ寺院ノ建築ニ着目シタ皇后陛下
ノ代表者ニテ新教寺院救濟會ノ發展ノ為メニ大
功アル皇太后宮大夫「シル」ハツハ男爵ハ寺院建築會
ノ發達ノ為メニモ全力ヲ傾注シタ此ノ「シル」ハツハ男
爵ハ諸方面ニ於テ人ト衝突ヲスルコトニハ馴レテ居ツ

又此ノ人ハ多クノ誤解ヲ招キテ新聞紙上ニ非常ノ
攻撃ヲ受^{ケテ}モ決シテ驚カヌ人ニアツタ然レ乍ラ此
ノ皇后陛下ノ第一侍臣タル「ハツハ男爵」以前ヨ
リ能ク知テ居ル人々ハ皆何故ニ宗教ニ關シテ「伯
林市」ノミナラス^他ノ多クノ地方ノ為メニ偉勲
ノアル此ノ人ニ對シ^テ限リ無キ攻撃^ヲ思ムベキ誹毀^ト
ヲ為スガ^{爲メ}當否^ハ問題トシテ^ハ新教寺院ノ為メ又
王家ノ為メ^ハ「ハツハ男爵」ハ決シテ骨惜^シ
セズ又一刻モ休息ヲ^モスル人テハナカツタ若シモ同男
爵カ其ノ非常ノ熱心ト思慮トヲ以テ彼ノ皇后
陛下ノ博愛事業ニ盡サナカツタナラバ又同男爵
カ其ノ多年積ミタル經驗ヲ以テ會長職ニ就キ絶
エズ此ノ事業ノ爲^メ議ニ參ジ又ハ自ラ事務ヲ執

ツテ會ヲ助ケナカツタナラバ今日屋根ノ上ニ高ク聳エ
テ居ル多クノ寺院ノ塔ハ建築セラレナカツタロウ
ト思フ

又「ハツハ男爵」カ寺院建築會ニ於テ皇后陛下ノ
代表者トシテ伯林市宗教ノ頽廢益々甚シキ時ニ
際シテ特ニ^同寺院建築會ノ莊麗ナル建築物「ウ
ルヘルム皇帝」紀念寺院ノ建築ヲ援助シ而モ此
ノ寺院カ伯林ノ美術建築ノ一トシテ永久ニ其ノ名
ヲ残シ同男爵ノ名聲ヲ高カラシメタト云フコト
ハ多クノ宗教家ニ於テ満足ニ思ツテ居ル而シテ
又他方ニ於テ「ハツハ男爵」閣下ヨリ指導サレ^テ蕙
陶サレタル此ノ會カ一建築工事ノ為メニ宗教上ノ
頽廢ヲ救フ^他事業ヲ^ハ疎ロソカニシ^或ハ事業ヲ妨^ガ

ラレル様ナコトが無カワタト云フコトハ決シテ忘レ
テハナラヌ又「ウヰルヘルム皇帝」紀念寺院ハ大正ニ對ス
ル紀念物デアルト云フコト及同寺院建築ノ爲メ皇
費消セラレタル~~費~~大部分ハ此ノ目的ノ爲メ皇
族~~ノ~~又富豪ノ會員ヨリ●提供セラレタ●モノニハ
非~~カ~~サルコトヲ忘レテハナラヌ此ノ當時寺院建
築會ヨリ建築セラレタル寺院及營造物ノ數
ハ非常ニ多ク伯林ニ於テハ前古未曾有ノ數ニ達
シタ

余輩ハ一千八百九十五年九十六年九十七年ノ紀念日
ニ瞥~~シ~~ヲ與ヘント思フ之レ等ノ年ニ於テ出來タル
祖國ノ紀念物中「ウヰルヘルム皇帝」紀念寺院ハ最
モ意味ノアル紀念物トシテ傑出シテオル新教寺

院救済會及寺院建築會ノ事業中「ウヰルヘルム
皇帝」紀念寺院ハ曰ハ「此ノニツノ會ノ事業中ノ王
デアル」ウヰルヘルム皇帝「紀念寺院敷地ハ一千八百九
十年十月二十二日皇后陛下ノ誕生日ニ「シャルロット
ンブルグ市廳ヨリ寄附セラレタモノデアツテ此ノ
敷地ニ對シ此ノ日ヲ紀念スル爲メ「アウグステーブ
#クトリア」プラツツト云フ名前ヲ命ジタ夫レヨリ
色々ナ手續ヲ經テ又多クノ困難ヲ排シテ一千八
百九十一年三月二十二日皇帝及皇后兩陛下臨御ノ下
ニ此ノ寺院ノ基礎据付ノ式ガ擧ゲラレタ此ノ日ハ
曾テ獨逸國民ガ「ウヰルヘルム一世大王」九十年ノ誕生
日ノ祝典ヲ擧ゲテ全大王ニ對シ敬意ヲ表シ大王ノ
幸福ヲ祈願シテ以來四年ヲ經過シテ居ツタ

然レ乍ラ此ノ短キ四年ノ星霜此ノ間ニ世界ノ歴
史ニ記載スヘキ幾多ノ重大事カ起リ「プロシ
ヤ」^皇室ハ幾多ノ悲惨ト幾多ノ天佑ニ際會
シタ然ルニ今ヤ皇帝「ウヰルヘルム」一世ヲ記念ス
ル為メ記念トシテ或ハ適當シテハオウ又カモ知シ
又ケレトモ記念ノ寺院トシテ茲ニ「ウヰルヘルム」皇
帝記念寺院ノ土臺ヲ据付ケルニ付テハ此ノ際
ニ於テ獨逸國民ハ歡喜ト感謝トヲ以テ満足
ノ意ヲ表ハサナケレバナラナイ此ノ土臺据付ケ
ニ於テ「シヤルロツテ」ブルク」ノ高等牧師「ミヒル
ハ」祝辭ヲ朗讀シ之ニ續イテ新教寺院救濟會
ノ會長宮内大臣「フオン」ウエー「ゲル」ハ左記ノ設
立書ヲ朗讀セラレタ

神ノ名父ノ名ニ於テ子基督ノ名ニ於テ又聖
靈ノ名ニ於テ告白ス此ノ三月二十二日ハ「パルム」
ンタツハ」(耶蘇復活祭前ノ日曜日)ニ相當シ又
朕ノ忘ル可カラサル英雄故「ウヰルヘルム」皇帝ノ
誕生日ニ相當ス此ノ日出度キ日ニ於テ朕ハ「ウ
ヰルヘルム」大王ノ記念ヲ其ノ名ニ依テ表彰スル
寺院ノ土臺据付ケノ式ヲ行ハントス故皇帝カ
曾テ報恩寺院建築ノ為メ敷地ヲ選定シ
タコトガアル此ノ敷地ハ今ハ結婚ノ式場トナ
テオル昨年十月三十一日「シヤルロツテ」ブルク」
市廳ハ此ノ敷地ノ附近ニ於テ本寺院建築
ノ為メ敷地ヲ提供セラレ更ニ動物園長ノ好意
ニ依ツテ此ノ敷地ヲ擴張スルコトヲ得マシタ

ウヰルヘルム大王ノ御陵墓地タル「シヤルロツテ」
ブルク「ノルイセン」區ハ同ク建築基金ト奇
院庭園ヲ寄贈シタ皇室及其ノ近臣殊
ニ尊敬スヘキ皇伯母即先帝ノ皇妹殿下ハ
「テ」ノ大公爵夫人等ヨリモ御下賜金ガア
ツタ伯林並ニ「シヤルロツテ」ブルク「ノ人々モ特ニ之
ニ干渉セラレタ「ポツダム」ノ尖柱塔建築會
モ亦其ノ會ノ計畫ノ範圍ニ屬スルモノトシ此ノ
寺院建築ノ為メニ資金ヲ調達シタ而シテ
「プロイセン」ハ勿論獨逸全國及大王ノ各前ノ
響イテオル外國ニ居ル獨逸人カラモ澤山ノ
寄附金ガ集リメシタ
新教寺院救濟會ハ伯林ノ宗教上ノ頽廢ヲ

救濟スルヲ以テ其ノ本來ノ任務ト為スモ昨年ヨ
リ此ノ外ニ尚三ツノ寺院ノ建築ヲ指導シタルガ
今又其ノ發起ニ依リ新教寺院建築會ヲ設
立シタルコトハ特ニ感謝ノ意ヲ表セナケレバナ
又此ノ新教寺院建築會ハ吾ガ首府ノ隣町「シ
ヤルロツテンブルク」ニ於テ博愛ト平和ノ事業ニ依
リテ各階級ノ社會ノ階級ヲシテ宗教上共同ノ
利益ニ向ハシメ又之ヲ一致セシメタ新教寺院建
築會ノ第一著ノ事業ハ「ウヰルヘルム」皇帝紀
念寺院ノ建築デアル朕ハ吾ガ宮内大臣「フォンウ
エーデル」ピースドルフ「及」紳高「リカルド」フオンハルド「
ノ指導」下ニ新教寺院建築會ノ會長ヲ建築
委員ニ任命シ皇室建築委員「シユエヒテン」ニ該

建築事務ヲ委任ス建造物ハ羅馬式ニシテ千
八百ノ座席ヲ有シ火山石ヲ以テ建築セラルベク
造作ハ總テ紀念的ノ特徴ヲ有スヘシ
故皇后「アウグスター」ノ名ヲ附セラルタル廢兵
公園ニハ報恩寺院が建テラレテアル又伯林及
「シャルロウテブルク」ノ住民ノ集ル此ノ所ニハ皇
帝ノ名ヲ附セラルヘキ寺院ヲ建テオケレバナラ
又此ノ寺院ノ名即皇帝ノ名ハ寺院ノ在ル限リ
ハ~~吉~~日ニ於テモ又凶日ニ於テモ又戰時ニ於テモ
又平時ニ於テモ信者、神「イエスタリスト」ニ至ルマ
テ知レ亘ラナケレバナラヌ
此ノ善人「ウヰルヘルム」大王ノ紀念ハ幸福デアレ
子々孫々ニ傳ヘル先帝先后ノ幸福ハ信仰ノ内

ニ宿ツテオル「イエスタリスト」ヨ昨日モ今日モ永
久ニ於テ幸福デアレ
一千八百九十一年三月二十二日「パルムゾンタツハ」(耶
蘇復活祭祭前ノ日曜日)ニ於テ伯林「シャルロウ
テブルク」ニ與フ獨逸皇帝「プロイセン」王ウヰ
ルヘルム獨逸皇后「プロイセン」王妃「アウグステ
ー」ヲ~~キ~~トリア
之ニ續イテ伯林ノ宗務監督總長「プロポスト」
デ「ブリユク子ル」ハ漆灰板ト鐵槌トヲ皇帝ニ
捧ケ皇帝陛下ハ聲ヲ震ハセツ、
此建物ハ曾テ我が國民ニハ宗教が無ケレバナ
ラヌト宣ハセラルコトアル朕ノ忘ルコトノ出
来ナイ祖父ノ記念トシテ信仰ヲ喚起スヘキ

確カナ鉄ナル我伯林市ノ寺院中ニ其名ヲ列ス
ルハ誠ニ神ノ名譽テアル

ト宣ハセラレ神ノ名父ノ名ニ於テ子基督ノ名ニ於テ又
聖靈ノ名ニ於テト云ヒツ、三度鐵樞テ漆灰板ヲ
打タレタ夫シカクノ皇帝ニ饒イテハ皇后陛下夫レ
ニ饒イテハ其ノ處ニ招待セラレタ外國ノ君主等
モ漆灰板ヲ打タレタ

此ノ寺院ノ建築ハ初メハ四圍ノ事情カ変更シタ
為メ工事ノ竣功ハ極メテ緩慢テアツタガ一千八
百九十二年ノ春ヨリ初メテ全速カラ以テ工事カ進
行セラレ一千八百九十三年ノ夏季ニ於テ兩陛下ハ
屢々建築工事ヲ巡視セラレマシタ

一千八百九十三年九月一日ハ快晴テ愉快ナ日ヲ

アツタ「ライン」河ニ沿フタル「コブレンツ」所ハ古代
ノ祭禮風ニ飾ラレ金色ノ光ガ輝イテオル皇帝
皇后兩陛下ハ先右「アウグスター」ノ愛棲地タル此
ノ地ニ行幸啓アラセラレ例ノ如ク皇后陛下ハ此時
ニモ貧困者ト不幸者ニ就テ御心痛遊ハサレ此ノ
日ノ午後新教ノ孤兒院ニ行啓アラセラレマシタ皇
后陛下ガコニ收容セラレタル孤兒ニ御挨拶ヲ
ナサル為メ内庭ニ降り立タセラレタル時ニ階カラ
大キナ窓ノ扉カ落ケ陛下ノ肩ノ上テ破裂シタガ
然レ乍ラ陛下ハ破レタ扉ノ重キヲモ意ニ介セス
又御召ノ着物ヲ破イタ無数ノ破片ニモ頓着セス
肩ヲ強ク御振りニナリ蹠跟キツ、強ク痛ク御
忍耐遊ハサレテ孤兒院ノ巡視ヲ饒ケラレタト云

フコトテアル之レハ九月一日ニ於テル「ライシ」河沿岸
ノ不思議ナル神ノ保護テアル

皇后陛下ニ對スル敬愛ノ念カラ茲ニ感謝ノ記
念物が贈ラレタ同年ノ十二月二十日ノコトテアル
白キ楓ノ木デ巧ニ彫刻ヲシタ「ウヰルヘルム」皇帝紀
念寺院ノ模型ガ寺院建築用ノ石材カラ作ラレ
タ臺ノ上ニ載セタ儘陛下ノ「クリスマス」ノ食卓ノ
上ニ置カレテアツタ此ノ奇麗ナホサナ紀念物ハ充
分ニ裝飾ヲ施サレテアツタ此ノ紀念物ノ前面ニハ
獨逸ノ古式ノ十字架ガアツテ其ノ上ニ「神ハ汝ヲ
保護スル」ト云フ語ガ書イテアツタ又此ノ紀念物
ノ右方ニハ葉ノ輪ガアツテ其ノ中ニハ皇后陛下ノ
組合セ紋ト一千八百九十三年九月一日ノ日附ガ書イ

テアツタ又此ノ紀念物ノ背面ニハ一千八百七十年ノ
鐵十字勲章ガアツテ其ノ上ニ昔時皇帝ノ使用シ
タ戰時貨幣ニ記載シテアルト同シ文句「神ハ吾
々ト共ニ在ル」ト云フ文字ガ記シテアツタ又此ノ記
念物ノ左方ニハ一千八百七十年ト一千八百九十五年
九月一日トノ二ツノ日附ガ書イテアツタ此ノ最後ノ
一千八百九十五年九月一日ノ日ニ寺院ノ開院式ヲ行フ
見込テアツタノデアル皇后陛下保護ノ下ニアル此ノ
團體ガ作りタル此ノ意味ノアル贈物ニ羊皮紙ガ
附ケテアツテ其ノ羊皮紙ニ詩人「ケーゲル」ガ次ノ
詩ヲ書キ付ケタ

神ハ吾々ト一緒ニアル 九月某日ニ傲ツテオル軍
隊ヲ率ニタル敵ガ暴風雨ノ為メ「セターン」ノ戰

場ニ於テノ慶殺ニサレタノハ神ノ御蔭テアル神ハ
陛下ヲ保護スル陛下ガ孤児ヲ訪問シタ厄日ニ
天使ノ群ガ陛下ヲ保護シ救助シタト云フコト
ニ就テ吾々公感謝シナケレバナラヌ見ヨ凡テ^者ハ
者ガ此ノ模型ノ寺院並ニ其ノ臺ノ石カラ陛下ニ
敬禮スルヲ、神ハ吾々ト一緒ニ在ル神ハ陛下ヲ保
護スル

皇后陛下ハ詩人「ケーゲル」ニ心カラノ感謝ヲシタ
「ケーゲル」ノ死後此ノ紀念ノ羊皮紙ヲ額面ニシテ
奇麗ナ場所ニ掲ケサセタ陛下ノ保護ノ下ニアル
団体ノ代表者ハ十二月二十九日ニ新御殿ニ招待ヲサ
レタ其時皇后陛下ハ貝殼ノ間ニテ「クリスマス」ノ
常磐木ノ下デ皇子カラ取圍コレテアツタガ招待

セラレタル者共ヲハ食卓ニ案内ヲシ大慶ニ喜ンデ
俄カナ此ノ賜リ物ニ付テ物語ラセラレタ
一千八百九十四年十二月二十日皇帝陛下ガ寺院ノ
大夫塔ノ頭石ヲ持テ上ケタ後ノ全月二十三日「ウヰル
ヘルム」皇帝紀念寺院ノ棟上式ガ約六百人ノ大工
カラ行ハセラレタ翌年三月ニ至リ初メテ「アポルタ
ー」此ノ新寺院ノ為メ寺鐘試験ガアツタ夫レカラ
「フエールベルン」即「ウオーターロー」戦争ノ記念日
ト「ベレーアリアニス」所ノ記念日撰帝侯夫人「ルイ
ゼヘンリエウター」ノ命日皇帝「フリードリッヒ」ノ埋
葬日ニ相當スル全年六月十八日ニ於テ宗務監督
總長「フアーベル」ニ依テ奉鐘式が行ハレ絶妙ノ鐘
ノ響ガ始メテ伯林市ヲ振動シタ

一千八百九十五年八月一日ノ日曜日ニ寺院ノ開院式
が行ハレタ此ノ日ハ早朝ヨリ鐘ガ鳴リ伯林市ヲ閉
ケ込メタ霽ガ散シテ間モ無ク八時過ニ寺院ノ周
圍ハ活氣ニ充テ充テ居ツタ九時頃ニナツテ貴
賓ハ到着シ初メタ各種ノ軍隊及伯林「シヤルロツ
テンブルク」「シエー子ベルク」ノ諸學校ノ生徒ハ此
ノ式場ニ派遣セラレ密ニ隊伍ヲ組ンテ街道ヲ行軍
シ寺院附近ノ各自ノ位置ニ整列ヲシタ今ヤ此ノ
撰帝侯領内ニハ老兵ノ團體ガ集ツテ居ツタ九
時三十分頃近衛歩兵一聯隊ノ護衛兵ガ鼓ト喇
叭ヲ鳴ラシ軍樂ヲ奏シテ撰帝侯領ニ入ツテ来
タ其ノ先頭ニハ撰帝ノ檜ノ葉ニテ飾ツタ護衛兵
ノ旗ガ樹ツテ居ツタ寺院ノ門ニハ来賓殊ニ獨逸ノ

諸侯「プロイセン」ノ宗務監督總長其ノ他ノ僧侶
元帥國勢大臣新教寺院救濟會及寺院建築
會ノ會長其ノ他ノ人々ガ集ツテ居ツタ十時頃警
鐘ト「コル子リユース」橋カラ響イテタル歡聲トガ
皇太子並「バーテン」ノ大公爵夫人ト共ニ兩陛下ガ
撰帝侯領ノ寺院ニ近寄ツテ来ルコトヲ報ジタ正
門ノ前テ兩陛下ハ御降車ニナリ新教寺院建築
會ノ會長宮内大臣「フォンウエーテル」ハ兩陛下ニ歡
迎ノ挨拶ヲセラレタ宮内大臣ハ皇帝陛下ニ精巧
ニ作ラレタル正門ノ鍵ヲ渡シタ、戸ハ開イテ儀式
ノ参列者ハ寺院ニ入ツタ
宗務監督總長「テラーベル」ハ皇后陛下ヨリ賜ツタ神
壇聖書ノ中ニ書イテアツタ言葉即汝ハ神ノ恵ヲ

望ム神ノ惠ヲ望ムカ故ニ汝ハ神ニ助ケラレト云フ
言葉ニ基イテ次ノ祝辞ヲ朗讀セラレタ

曾テ皇帝陛下ガ此ノ國民的紀念物タル
「ウヰルヘルム」皇帝紀念寺院ノ土臺据付ノ式
ニ於テ祝辞ヲ讀ム初メタ時其ノ各ハ言葉ハ
陛下ノ祖先ノ靈殿ニ迄明カニ聲高ク響キ渡
ツテ夫レハ恰モ曾テ「プロイセン」ヲ支配シテ居ッ
タ陛下ノ祖先等ガ地下ニ於テ陛下ノ祝辞ニ對
シテ祈禱ノ言葉ヲ以テ答ヘルガ如クアツタ又其
ニハ皇帝陛下ノ御聲耳ガ彼ノ世ヨリノ反響ト
交通シテオルガ如ク響イタノテアル而シテ彼
ノ世ヨリノ斯カル反響ハ虚空ナ無實ノモノテ

ハナカツタ我々ガ此國民的紀念物ニ對シ本日
再ヒ其紀念物タルコトヲ確定スルニ當リ茲ニ
現世ト彼ノ世トノ生キ生キシタ關係ヲ鐵十字
勲章ノ簡素ナルコト、天國ノ尊嚴トニ付キ
テ多少述フル所アル此ノ祝辞ニ依リテ明示
セント思フ

汝ハ神ノ惠ヲ希望ス汝ガ神ノ惠ヲ希望ス
ルカ故ニ汝ハ神ニ助ケラル、此言葉ハ彼世ヨリノ
大ナル反響外ナラヌノテアル又此言葉ハ祈禱ト
啓示、信仰ト神惠、神惠ノ仰望ト神助トノ
靈妙ナ交互作用ニ外ナラヌノテアル
實ニ神ヲ信仰シテ其ノ惠ヲ望ムコト竝神ノ惠
ニ依ル救助ナル語トハ此ノ神聖ナル紀念寺院暗

語テアル而シテ此ノ紀念寺院ハ我カ大王ノ最
モ美シキ花冠テアツテ又我カ國民ノ未來ヲ
照ラヌ幸福ノ星テアル

而シテ宗務監督総長ハ先帝ノ逸事ト風姿ト
ニ説キ及ボシ尚語ヲ續ケテ未來ヲ語り祝辭ヲ完
結セシメタ

斯クシテ寺院ノ開院式ハ終ヲ告ケ「シヤルロツテン
ブルク」ノ高等牧師「ユルレル」ハ神壇ニ登リ嘗
テ皇后陛下ガ御下賜ニナツタ神壇聖書ノ中ニ
陛下カ御書キ遊ハシタ神ハ吾々が喜ブ様ナ大事
ヲ吾々が為メニ為シタト云フ文句ニ付キテ演説ヲ
ナサレタ

十二時頃儀式ガ終リ兩陛下ガ寺鐘ノ響音ノ中ニ

寺院ヲ去ツタトキ戶外ニ軍人會、學校軍隊
等ノ團體ガ凡テ神ニ感謝セヨト云フ讚美歌ノ
合奏ヲ始メタ

祭儀ハ極メテ快晴ノ天氣テアツタ為メ好都合
ニ取行ハレ數千人ノ人々が出席シ實ニ國民的祭
儀デアツタ獨逸ノ各地ハ勿論亞米利加ヨリモ多
數ノ特派員來著シ愧テ此ノ莊嚴ナル開院式ニ参
列セラレタノデアツタ

此ノ祭儀ノ當日ハセタン戦争ノ二十五年紀念祭
ニ相當シタルヲ以テ此ノ日ハ獨逸全國ヲ通シテノ
祝祭日デアツタ九月八日皇帝陛下ガ「ステツチン」
ニ於テ發布シタル布告ハ左ノ如キモノデアツタ

朕ハ總テノ戦員殊ニ喜々勇々ニテ財産ト肉血

トヲ犧牲ニ供スル老兵等ニ朕、感謝ノ意ヲ
傳、且朕ハ此ノ老兵等ノ偉勲ニ付テ心カラ
ンテ居ルコトヲ彼等ニ知ラシメンコトヲ希フテ
オル又獨逸國民カ殆ト其ノ全部ヲ擧ゲテ
獨逸帝國ノ再興ノ紀念日ヲ熱心ニ祝賀シ且
此ノ驚クヘキ成功ヲ以テ赫々タル神ノ援助、英
雄皇帝「ウヰルヘルム」老大王ノ明敏ナル指揮、同
盟國王ノ援助、其ノ優秀ナル顧問、老鍊ナル指
令官、勇敢ナル軍隊ノ功績ニ歸シ之ヲ感謝ス
ヘキテアルト云フ國民ノ自覺カ更ニ此ノ日ニ獨
逸國民ノ全般ニ涉リ起ルト云フコトハ朕ノ大
ニ満足スル所デアル

皇后陛下ハ親切ナル同情ヲ以テ「ウヰルヘルム」皇

帝紀念寺院ノ建築ニ從事シ此ノ華麗ナル工事
ヲ忠實ニ注意シテ指揮シ此ノ紀念的建築物
ノ落成ニ付キ心カラノ喜ヲ以テ開院式ニ参加セ
レタ

此ノ寺院ニ付キ特ニ記述スベキハ此ノ壯麗ナル寺院
ノ外面ガ一々所謂羅馬式ニテ結構サレテ居ルト云
フコト、此ノ寺院ノ内面カ高貴ノ器物ヨリ扉ノ
把手ニ至ルマテ悉ク美術品デアルト云フコトノニ
ツデアツテ之ハ特ニ述ベナイテハ居ラレナイ。寺院
寺院ノ管理權ハ尚寺院建築會ノ會長ノ手ニ
アル而シテ開院式後寺院ノ内部ニ尚建築スベキ
モノ及美術的製作ノ完成スベキモノガ残ツテオツ
タカ新教寺院建築會ハ其ノ總會ニ於テ此ノ寺

院ノ為メ獨立ナル財團法人ヲ設立センコトヲ決
議シ一千九百三年該財團ハ皇帝陛下裁可ヲ
經テ將來適當ナル維持ヲスル為メノ資金トシテ
五十六萬「マルク」ノ資金ヲ以テ成立スルニ至ツタ而
シテ大理石ト寄セ木細工トヲ以テ寺院ヲ裝飾ス
ルコトガ寺院建築會ノ任務デアツテ該會ハ一千
九百六年二月二十七日ノ陛下ノ銀婚式マデニ大部分
其ノ任務ヲ果スコトが出来タ

今ヤ伯林市ノ町外レニ巍然トシテ立ツテ居ル莊麗
ナル寺院ハ獨逸國無ニ大勝利者デアリ至ツテ謙
遜ナ無邪氣ナ老人トシテ獨逸國民ノ腦裡ニ永久
ニ記憶セララル、皇帝ノ立派ナ紀念物デアル
此ノ時「ウヰルヘルム」皇帝紀念寺院ノ建築ト相並

ンデ他ノ多クノ寺院ノ建築ガ初マツタ其ノ中デ故
皇后アウグスタ「崩御後間モナク兩陛下ガ此ノ故
人ノ為メニ紀念寺院ノ建築ニ注意ヲ拂ハレタト云
フコトハ前ニ述ベタコトガアル此ノ建築事業ハ益進捗
シ一千八百九十五年三月二十二月皇帝皇后兩陛下「バ
ーデン」公並同夫人「ワイマー」公及皇族甚臨ノ下ニ
此ノ寺院ノ開院式ヲ行フコトヲ得タ寺院ノ所在ハ
伯林市ノ北方ニ位シ報恩寺院ト名ケラレタ

伯林市中最モ大キイ区ハ市ノ西南ニアル「ハイリツ
ヒクロイツ」区デアアル該区ノ人口ハ前世紀ノ終リ今世
紀ノ始ニ於テ約十二萬人デアツテ該区ニハ仮建テノ
禮拜堂ガアツタガ其ノ代リニ新タニ寺院ガ建設セ
ラレタコレハ此ノ区ノ唯一ノ寺院ニシテ一千八百八十八

年開院式ヲ行ハセラレタ其ノ當時人々ハ一般ニ此ノ
区ハ將來三區若クハ四區ニ分割シ各一寺院ヲ持タ
ナケレハナラヌト云フ意見ニ一致シテオツタ然レシ
カラ此ノ「ハイリツヒクロイ」区ハ伯林ニ於ケル寺院
建築ニ付テ打克ツベキ如何ナル困難ガアツタカラ
能ク示シテオル此ノ区ノ新寺院ノ建築ハ皇帝
陛下ガ贊助セラレ伯林ノ宗教會議ハ補助金ヲ
提供シ伯林市ハ建築地ヲ寄附セントシタニモ拘ラ
ズ此ノ区ノ宗教ノ機關ハ建築ニハ不賛成デアツタ、
妨害ニ妨害ヲ生ジタガ畫策ニハ又更ニ畫策ヲセ
ラレタ若シ寺院建築會ガ存在セス又此ノ事件ニ
付テ皇后陛下ガ親切ニ多ク絶エズ獎勵シ計畫
セナカツタナラハ恐ラクハ萬事無益ニ歸シタデア
ル

ウカ寺院建築會ガ存在シ皇后陛下ガ親切ニ寺
院建築ニ付テ能ク獎勵シ畫策セラレタ為メ寺院
ノ建築ハ成就シタノデアアル若シ皇后陛下ガ御熱心
テナカツタナラハ假令伯林宗教會議ト伯林市トガ如
何ニ盡力シテモ此ノ貧シイ「ハイリツヒクロイ」區ニ
三ツノ寺院ヲ建築スルマテニハ約二十年ヲ費サナク
レハナラナカツタナラハ
皇后陛下ノ寺院建築會ガ如何ニ目覺マシキ活
動ヲ為シタカハ企會ガ一千九百四年ノ終リマテニ十
棟ノ寺院ト夥多ク牧師ノ住宅ト公會堂、養育
院、病院各一棟其ノ他多ク、建物ヲ獨力テ建築
シタト云フコトデワカル此ノ十棟ノ寺院ノ内伯林
及其ノ郊外ニ建テラレタルモノ八棟「ホツタム」及「

ルツケレワルド」ニ建テラレタルモノ各一棟ツ、テアル
又伯林及其ノ郊外ニ十六棟ノ寺院ヲ建築スルタ
メニ巨額ノ補助金ヲ交付セラルレ又獨逸ノ各州
ニ八十四棟以上ノ寺院ヲ建築スル為メ巨額ノ寄
附金ガ集メラレタ尚此ヨリ以上ノ寺院建築ノ為メ
少額ノ寄附金ノアツタコトハ枚擧スルニ違ナキ程
テアル、同ク外國モ禮拜堂、寺院及ビ新教ノ慈
善的建築物ノ為メ多少ノ補助金ガ集メラレタ
仮ハ「ベネゲツヒ」「フロレツツ」「コンスタンチノーペ
ル」「ペトレム」「エルザレム」「ヤツファ」等テアル
前述ノ時マデニ寺院建築會ヨリ此ノ一切ノ寺院
建築ノ為メ支出シタル費用ハ千三百萬「マーク」
以上テアル其ノ内テ皇帝陛下ノ恩賜金ハ三百萬

「マーク」餘皇族ノ恩賜金ハ約一百萬「マーク」釀
金及特志家ノ寄贈金ハ約七百萬「マーク」以上テ
アツタト云フコトテアル寺院建築會ナルモノ、起ツ
タ動機ハ伯林市ノ寺院會議伯林ノ富裕ナル區
及諸官廳ノ方面ノ人々ガ熱心ニ宗教ノ頽廢ヲ救
ハントシタコトニアルソレテ一千八百九十三年カク伯
林市ニ於テハ毎年多クノ寺院開院式ガアツテ
一兩年ノ間ニ澤山ノ寺院ノ開院式カ行ハレタ
「ハイリツヒタロイツ」區ノ宗教上ノ團體カ寺院建
築ヲ援助セナカワタナラバ皇后陛下ハ之ニ忠告ヲ
加ヘタニ相違ナイ猶太人ノ帰依ヲ目的トスル英國
ノ新教々會ハ伯林ノ南方ニ其ノ寺院ヲ持ツテオ
ル皇后陛下カ倫敦ニ行啓サレタ時ニ自ラ此ノ

教會ト交渉ノ上「ハイリツヒクロイツ」区ト「ド
イファルケッヒカイト」区ヲ割キ一區ヲ作り其ノ区
民ヲ集メル為メ一寺院ヲ買収シ之ヲ改造シ
テ此ノ新「ラシキ」區ノ為メニ基督寺院ト名ツケ
ラレタル寺院ヲ開イタ

一千八百九十三年 皇后陛下御臺臨ノ下ニ開院式
ヲ行ハセラレタル寺院ハ「ゲトゼマーネー」寺院、「ナツア
ーレット」寺院、昇天寺院、「エンマウス」寺院、「イン
マヌエル」寺院、「フリーデナウ」ノ高等牧師寺院
等ナル一千八百九十四年ニハ「ルーテル」寺院、伯林
ノ耶蘇寺院及媾和寺院、「ポツダム」五旬祭場、
禮拜堂、「シエーネベルグ」ノ使徒「パウルス」寺院、
開院式ガアツタ

報恩寺院「ウヰルヘルム」皇帝紀念寺院ノ開院式
ハ一千八百九十五年十月二十日「フリードリッヒ」皇帝
紀念寺院ノ開院式ニ續イテ行ハレタ一千八百七十九
年ニハ伯林ノ「ジメオニス」寺院、一千八百九十八年ニハ
伯林ノ「ゲオルゲン」寺院及「ポツダム」ノ救世主寺院
ノ開院式ガアツタ

寺院建築會ハ此ノ外ニ又公會堂ノ建築ノ補助
ニ付テ注意ヲ拂ツタ今世紀ノ初ニ至ツテ伯林ノ「カ
ーペルナウム」寺院、「ノイワイゼンゼー」ノ「ベタニエ」
寺院、伯林ノ「マルタ」寺院、「ステファニス」寺院、伯
林郊外「クルーネワルド」ノ寺院、「リヒテンベルグ」
ノ信仰寺院ガ開院セラレ最後ニ昨年又「ハイ
リツヒクロイツ」區ニ新「ラシキ」ニツク寺院ガ開院セ

ラレタ

寺院ノ名稱ト数ハ以上ノ如クテアルカ其ノ名稱ヲ
煩ハシクモ讀ミ上ゲル時ニハ其ノ名稱ハ皇后陛下
カ第一ニ奨励シテ非常ナ熱心ヲ以テ進歩サセタ博
愛事業ノ明ラカナル輝キヲ現ハシテ居ル祖國ノ國
民ハ此ノ寺院ノ名前タケニ付テモ喜バナケレバナラヌ
皇后陛下ハ新タニ一寺院ノ建テラレル毎ニ屢、其ノ
トキ朗讀セラル、祭辭ハ新寺院ノ最良ノ寶テアル
ト云フコトヲ能ク言ハレタ。媯和寺院ノ建築書ニハ
此ノ寺院ハ媯和寺院ト名ツケ神ハ基督ニ宿ツテ
居ル世界ハ基督其ノモノト媯和スルト云フコト
ヲ牧師ニ思ヒ起サセナケレバナラヌ、又此ノ寺院ハ
同時ニ吾々ヲシテ神ト媯和セシメヨト云フ祈願ヲ恊

テノ不幸者ヨリ神ニ為スコトヲ助ケナケレバナラヌト書イテアル
皇后陛下ハ何時デモ都合シテ出来ル限り寺院
ノ開院式ニ御臨臨ニ成リ新タナル演壇ノ為メニ
聖書ヲ作り自ラ言葉ヲ選ミ自分テ書イテ奉
納シタ而シテ陛下ガ如何ニ注意シテ又熟慮シテ
其ノ言葉ヲ選ンダカハ二三ノ例テワカル昇天寺院ノ
神壇聖書ノ文言ハ余ハ汝等ニ平和ヲ許ス余ハ余
ノ平和ヲ汝等ニ與ヘル余ハ世界ガ與ヘル平和ヲ汝等
ニ與ヘル汝等ハ驚キ怖レテハナラヌト書イテア
ル又「エシマウス」寺院ノ神壇聖書ノ文言ハ吾々ノ
トコニ止マレ夜ニナルタロウカラト書イテアル「ル
テル」寺院ノ神壇聖書ニハ吾々ノ神ノ言葉ハ永久
ニ残ルト書イテアル故皇后「アウグスター」ノ紀念

為メ建テラレタ報恩寺院ノ神壇聖書ニハ皇后
陛下ハ故人ノ愛シテ居ツタ言葉即希望ニ於テ喜
ンテ居レ不幸ニハ忍耐シテ居レ專ラ祈禱ニ耽ツテ
居レト云フ言葉ヲ選ンタ斯クノ如ク皇后陛下ハ適
當ナ言葉ヲ断エズ発見セントシテ聖書ニ親ンテ居
ツタ又皇后陛下ハ死生ノ帰著スル所ヲ能ク知ツテ
居ツタ「ライン」諸國ノ使カラ「ウヰルヘルム」皇帝
紀念寺院ノ為メ聖書ガ贈ラレテアツタ時ニソレ
ニ對シテ余ハ聖書ト死生ヲ共ニス我ガ獨逸全國
モ又我ガ皇室モ聖書ト死生ヲ共ニスト云フ言葉
ヲ以テ答ラセラレタ
初メ寺院建築ハ人類ノ精神教化ヲ勿論主眼
トシタケレドモ^其建築ニ依テ寺院ヲ奇麗ニ建築

スルコトニ著シキ影響ヲ與ヘタ如ク建築ノ實行ニ
依リ國民ノ精神ヲ高尚ニスルノ効果ガアツタ有名
ナル寺院建築ノ大家ハ建築會ノ先驅ノ下ニ輩出
シ彼等ハ一面莊麗ニシテ卓越セル中世ノ製作品
ヲ美術上適當ニ参酌シ且新時代ノ要求ヲ顧
慮スルヲ以テ近世寺院建築ノ最上ノ解決デア
ルト考ヘラレタ獨逸皇帝陛下ガ特ニ趣味ヲ以テ
居ラレタ所謂羅馬建築式即曾テ其ノ流行ヲ中絶
セラレタル古代獨逸建築式ナルモノハ特別ニ實用的
テ美術的ニ發達シ得ル能力ノアルモノナルコトヲ吾
吾ニ示シタ

最近二十年間ノ伯林ノ寺院建築ハ寺院建築ノ
著シキ發達ヲ示スモノデアツテ其ノ發達ハ獨逸全

國に普及して居ル寺院建築ノ發達ハ又硝子画ノ發達ヲ促シタ硝子画ハ前世紀ノ終リマテハ猶遠ニ於テハ一般ニ發達セナカワタモノテアツタカ今日ハ寺院建築會ノ獎勵ニ依テ此ノ技術ハ非常ニ發達シタ然レナカク寺院建築ノ最モ光輝アル効果ハ特ニ伯林ニ於ケル寄セ木細工術ノ輸入テアル寺院建築會ハ伯林ニ規模ノ寄セ木細工ノ會社ヲ始メタ而シテ寺院建築會ハ寄セ木細工術ノ研究ノ為メニ天才ノアル青年美術家ヲ伊太利ニ派遣シタ現今テハ自分ノ研究心カラ他ノ美術家ガ伊太利ニ出掛ケテ居ル伯林ノ寄セ木細工ノ會社ノ事業ハ年々重キク爲レ何時テモ博覽會テハ第一等賞ヲ得ルト云フ程

完全ニ發達シタ若シモ斯クノ如キ美術ノ獎勵及發達ヲ助ケタルコトニ付キ寺院建築會ヲ非難スル人アリトセハ其レハ甚シキ間違テアル何トナレバ寺院建築會ハ金持ノ多クノ美術家ガ其ノ財産ヲ好シテ寺院ノ為メニ提供スル動機ヲ作り且總テノ階級及徒來寺院ニ遠サカツテ居ツタ人々ヲ再ヒ寺院トテ係ヲ持ツ様ニシタカラテアル最後ニ寺院建築ト共ニ次第次第ニ良キ「オルガ」ニシテ製作シ又ハ「オルガ」ノ大キナ合奏場ヲ設備シ又ハ寺院合奏ヲ獎勵シ以テ寺院音樂ノ發達ヲ促シタ

吾々ハ寺院建築會ノ此等ノ外的ノ事實ニ依テ人類ヲ神ニ導クコトヲ得タト云フコトヲ斷言スルコト

か出来ナクニシテモ聖書ノ説教ノ傍ラ宗教的感情ヲ興奮シ又少クトモ寺院ニ對スル外觀的興味ヲ助ケルニハ安全ニシテ適當ナ立派ナ手段デアルト断言スルコトが出来ル。皇后陛下ノ會ノ最高終局ノ目的ハ不死ノ人類ノ精神ニ唯平和ノミヲ持ツヨウニ之ヲ導ク必要ナルコトヲ示スコトデアアル

今ヤ新寺院ハ常ニ日曜日ニ信者ノ本部トナルノミナラス平日ニ於テモ亦平靜ヲ必要トスル人々及平和ヲ好ム人々ノ為ニ避難所トナル様ニ皇后陛下ハ高等寺院會議ニ次ノ手書ヲ賜ツタ
余ハ寺院生活ノ癡達ノ為メ殊ニ我が騒々シキ首府伯林ニ於テ平日一定ノ時間寺院ヲ開キ又ハ「オルガニ」彈奏ニ短ク祈禱ノ禮拜ヲ組合ハヤ

又
又
又

繁劇ナル職務ヲ持ツテ居ル人々ニ短ク安息ノ機會ヲ與ヘ又禮拜ノ休息ヲ為サシムルハ有益デアルカ無イカリ新教高等寺院會議ニ於テ講究セシコトヲ望ム一千八百九十年十月二十七日新御所ニ於テ皇后王妃アウグステーブン井クトリア新教寺院救濟會ノ伯林支部ハ此ノ制度ノ費用トシテ此ノ制度ガアケラコケラノ家庭ニ貢獻シテ證跡ヲ追究スルコトハ出来ナカワタケレドモ寺院ノ公衆ヨリシテ生活ノ嵐カラ吹キ倒サレタ人々ニ安靜ヲ與ヘ又夜ノ短ク禮拜ヨリシテ悲哀ノ人々ニ慰藉ヲ與ヘタニ相違ナイト云フコトハ疑ナイコトデアアル
皇后陛下ハ宗教管区ヲ改正シ之ニ寺院ヲ建設

セシコトヲ主眼トシタカ其ノ本来ノ目的ハ市民ノ
精神ヲ改良スルニアツテ市民ヲシテ「イエスタリス
ト」ニ基キ建テラレタル寺院内ノ生キタル建築石ト
成ル様ニ自ラ隨意ニ勉メシムルコトニアルニアワ
西陛下ノ銀婚式ニ當リ「ウヰルヘルム」皇帝他念
寺院ヲ擴張スル為メ莫大ノ資金ヲ集メタ此ノ外
寺院建築會ハ西陛下ノ銀婚式ニ於テ望マレタ事
業ヲ近年ニ於テ實行シ最近ニ於テハ「ホニホル
グ」ノ救世寺院ノ建築ハ寺院建築會ニ依テ遂
行セラレ一千九百八年三月十七日西陛下基座ノ下ニ開
院式ヲ行ハセラレタ御陵所長ノ「アドラウ」アレニ
ハ皇帝陛下カ神壇聖書ノ内ニ書キ入レタ何人モ
「イエスタリス」即吾等カ救世主ノ外ニ他ノ根據ヲ

持タヌト云フ言葉ト皇后陛下カ演壇聖書ノ内
ニ書キ入レタ汝怖レテハナラヌ余ハ汝ヲ救フ余ハ汝
ノ名前テ汝ヲ呼ブ汝ハ私ノモノデアルト云フ言葉ニ基
イテ祭辭ヲ述ベラレタ、陵所長「アドライ」アレニ
ハ直々ニ開院ノ式事ヲ執行シ市民ハ開院ノ祈禱
ノ間屹立シ大キナ鐘カ響ク大勢ノ市民ノ吟誦
ノ後高等牧師「テカン」ワグネルハ感謝ノ祈禱ヲ
為シ寺院ヲ市民ニ引渡シタソレニ續イテ「ウアイオ
リン」堅琴及「オルガレ」ノ奏樂「ラルゴ」ト云フ一曲
カ奏セラレ之ニ續イテ市民ノ吟誦ト吾々ノ神ハ確カ
ナ城砦デアルト云フ合奏カアツタ宗務監督長
ノ「テマウレル」ノ祈禱、和蘭ノ感謝祈禱ノ済シタ
後市民ノ吟誦カアツテ「オルガレ」ト特選樂隊ノ指揮

ノ下ニ合奏アリ式ヲ終ツタ

此ノ寺院ノ内面ヲ觀ルトキハ如何ニモ莊麗テアル
ト云フ印象ヲ與ヘラル、ノテアル其ノ建築術ノ羅
馬式ナルコト、青色及金色ノシタ驚異クヘキ奇モ
細工、十字架ノ形ヲシタ大キ十點燈、神壇ノ為メ皇
后陛下カ作ツタ瑪瑙飾リノ十字架等ハ如何ニモ
神々シク畫ノヨウニ奇麗テアル而陛下ハ「オルガン」ノ
奏樂ト鐘ノ響ノ間ニ還御ニ成リ夫レコ引續クテ市
民ハ寺院ヲ退散シタ終リニ際シ「エルサレム」ニ於ケ
ル「エルベルグ」ノ「アウグステー」キトリアル「慈善
団体」ハ寺院建築會ノ全ク特別ナル奨励ヨリ出
來タモノデアウツテ独逸人ノ病院ヲ建設シ又「エル
ベルグ」ニ懨散所ヲ建設スルヲ目的トシ何レ近キ

將來ニ於テ其ノ目的ヲ達スルコトニ成ルタロウト思フ
既ニ一千九百七年ノ耶蘇復活祭ニハ新教高等寺
院會議ノ派遣員臨席ノ下ニ病院ノ莊嚴ナル
土基据付ノ式カ行ハレ之ニ續イテ建築大ニ進捗セ
ラレタ此ノ建物ハ獨逸人ノ「エルサレム」ニ巡礼スル者
ノ祝祭場又ハ隱遁所トナリ又「エルサレム」ノ獨逸
人ノ懨散所トナリ同時ニ東洋ニ於ケル獨逸新教
ノ博愛事業ノ顯著ナル紀念物デアラ子ハナラ又
寺院建築會ハ十分ニ其ノ目的ヲ達シ計畫ヲ遂行
シ且伯林ノ甚シキ宗教上ノ頽廢ヲ救助シ伯林ニ
存在スル宗教上ノ機關ヲシテ自ラ活動スルノ機會
ヲ與ヘタ而シテ又此ノ會ハ更ニ伯林ヲ踰エ獨逸ノ
各州ニ及ボシ獨逸ノ國境ヲ踰エ殊ニ耶蘇ノ聖

誕地進入シタ而シテ同會ハ將來ニ於テハ例ヘハコアイ
フェルニ於テ碑石ヲ以テ寺院ヲ建築スルカ如キ又
エルヘル分ニ寺院ヲ建築スルカ如キ二三ノ任務ノ外
ニハ其ノ重ナル建築物ノ保護及維持ニ主トシテ
カヲ注グコトニシタ、吾々ハ寺院建築會ノ上ニ益
神ノ幸福カ來ランコトヲ望ム

第十五章 其他ノ団体ノ保護者

婦人救済會、新教寺院救済會及寺院
建築會ハ共、皇后陛下ノ會ト謂ハナケレバナラヌ
皇帝皇后兩陛下ハ之レ等ノ會ノ設立ヲ獎勵シ
當初ヨリ皇后陛下ハ之レ等ノ會ノ發達ニ大ニ與
テ力ガアツテ同陛下ノ慈愛ノ手ハ會ノ事業ノ為メ
新シイ多クノ道ヲ示シタ皇后陛下カ此ノ會ニ特
別ノ關係ヲ持ツテ居ルト云フコトハ勿論デアルカ然
シナカラ同陛下ハ之レ等ノ會以外ノ會ニ向ヒテハ
之レ等ノ會ニ對スルト同様ノ盡力ヲセナイトイフ
程之レ等ノ會ノ保護ニノ執著セラレタカト云フ
ニ決シテ此レニノ執著スル様ナコトハ無カツタ、又

新タナ之レ等ノ會ノ事業ニ撞着シ又ハ之レ等ノ
會ノ事業以外ノ事業ヲ目的トスル舊來ノ會ニ
對シテハ冷淡デアツタカト云フニ決シテ冷淡デハナ
カワタノテアル吾々ハ皇后陛下カ自分ノ會ヲ保護
スルヨリ以上ニ旧來ノ會又ハ他ノ會ヲ保護シ又自分
ノ會ニ熱心デアルヨリ以上ニ他ノ會ニ對シテ親切デア
ルト云フコトヲ言ハナケレバナラヌ

爰ニ愛國婦人會ト名ツケラル、名前ノ立派ナ古イ
會カアル此ノ會ノ起源如何ト云フニ所謂王カ召ベ
ハ總テノ者カ來ルト云フ自由戰爭ノ頃既ニ獨逸
ノ婦人ハ信仰的ノ熱心ヲ以テ病傷ノ兵士並ニ本國
ニ帰還ヲ命セラレタル兵士ニ慰藉ト救助トヲ共
ヘシカ為メニ團結^ス其ノ結果出來タ會ノ最初

ノモノハ皇女ノ指導ノ下ニ伯林ニ於テ組織セラレ
タカ之レ等ノ會ノ格言ハ祖國ノ安寧ヲ計ル為メト
イフコトニアツタノテアル之レハツマリ「エーナ」ノ戦役
ニ依リテ大ニ屈辱ヲ受ケタ時ニ當リ其ノ奉仕セル女
官等ト共ニ急ラズ負傷者ノ保護ニ奮闘シテ居ッ
タ忘ルベカラサル王妃「ルイゼ」ノ遺言ヲ尊重シタニ外
ナラヌノテアル自由戰爭後之レ等ノ會ハ再ビ中絶
シタケレドモ昔ノ精神ハ依然トシテ獨逸婦人ノ心
ニ動イテ居ッタ一千八百六十六年ニ激シキ戰鬥カ
續イタソレヨリ二三年前ニ瑞西人「ヘンリー・ワーレン
ト」カ「サルフェリノー」ノ追懐ト題スル書物ヲ著シ
タ、著者ハ思ヒ切ツテ此ノ書ニ於テ「クリシヤ」戦争
「マゲンタ」及「サルフェリノー」ノ戦役ノ残虐ナルコトヲ

述べ社會ヲ警醒シテ曰ク國際法上ノ原則カ定メ
ラレ條約ニ依テ國際法上不可侵ナモノトセザレバ
ナラヌ之カ實行トシテ歐羅巴諸國ニ於テ戰傷者
ノ救済ノ為メ會ヲ組織セザレバナラヌ何トナレハ人
類及文明ハ斯クノ如キ事業ヲ切ニ要求シテ居ルカ
ラテアルト

此ノ骨折ハ「プロイセ」ニ於テハ皇室ヨリシテ最モ
執心ナル援助者ヲ見出シタ、新タナ赤十字ノ會ハ
戰時ニ於テ●目覺シキ活動ヲ為●●ノテアル
戰爭カ終ツテ一千八百六十六年十月十日感謝祭ト
平和祭トカ行ハレタ其ノ時ニ新聞紙ニ「プロイセ」
ノ首府(伯林)ノ知名ナル紳士淑女ノ調印ヲ得タル宣
言書カ現ハレタ其ノ文句ハ左ノ如クテアル

此ノ市ニ於テノ皇后陛下ノ保護ノ下ニアル愛國婦
人會ト名ツケラレル會ハ戰時ニ於テ職業及階級
ノ區別無ク誠心誠意犧牲ヲ拂ヒ大ニ活動ヲシ
タ婦人ノ力ヲ^{如ク}平時ニ於テモ共同一致シテ效
果ノアル奮闘的ノ任務ニ従事スルコトニ●●タ此ノ
婦人ノ力ヲ^{政府}適當ニ綜合又ハ配分シテ「プロイセ」
ノ中央^{政府}ト協力シテ病傷兵士ヲ保護シ且在
来ノ慈善團體ニ必要ナル援助ヲ與ヘルノミナラス
愛國ノ精神ヲ以テ一般の又ハ一部の國難例
ハニ戰争、火災、洪水、傳染病ノ如キ災害ニ付
キ應急的ノ救助ヲ為シテノ災害ヲ成ルベク軽減シ
或ハ金品等ヲ蒐集シテ戰時ニ需要品ヲ供給ス
ルカ如キコトニ依テ確實ナ救済ヲ與ヘンコトヲ努

婦人會

メント思フ此ノ救済方法ハ經驗上斯クノ如キ場合ニ於テハ最モ効力ノアルモノナルト信スル

此愛國婦人會ハ全玉國ニ對スル救済ノ共同團體タル事ヲ目的トシテ居ル夫レ故ニ本年ノ夏ニ於テ活動ヲシテ居ウタ各州ノ総ヲノ婦人會ヲ其ノ支部ト為爲サレタメ之ト結合シタ白地ニ赤十字ハ會ノ記章ナル

從テ感謝及平和祭ニ依リテ愛國婦人會ノ委任ヲ受ケタ下ノ記名者ハ婦人會ノ任務ニ對シ意見ト同情情ヲ持テオル儀ヲノモノ及ビ國步艱難ノ時ニ國民一般ノ幸福トナル事業ニ協力スル伯林ノ儀ヲノ淑女女ニ對シ入會シテ會ノ為メニ忠實ニ働カンコトヲ望ムト

永遠ニ此ノ會ノ永續ヲ保證スル迄ニ進行シタノハ當時皇后「アウグスタ」ノ忘ルヘカラザル功績デアアル、一千八百六十八年第一回總會ニ於テ會ハ既ニ二百五十ノ支部ヲ有シテ居ル然シナカラ一千八百七十年ニハ忠實ナル愛國的精神ハ實際衰ヘテ居ウタノデアル故ニ皇后「アウグスタ」ハ祖國ハ忘テノ婦人カ其ノ義務ヲ盡スベク用意シテアルコトヲ期待シテ居ルト云フ言葉ヲ含ニテ居ル宣言書ヲ發布シテ戦争カ破裂スルヤ否ヤ會ハ博愛事業ヲ計畫シタ支部カクハ約二百萬「マルク」集メラレ製作シ贈與セラレタル品物ノ數ハ四百萬以上ニ達シタ即時ニ五十ノ野戰病院カ會カラ建テラレタ二百三十七ノ病院ノ内一部分ハ會員ノミカラ又他ノ一部分ハ他ノ看護

婦ト共同トテ ~~後~~ 服ト約六万七千ノ病傷者ヲ
收容シ保護シタ

戦争ノ恐怖ノ念カ通り過キ燃ユルガ如キ平和的
感情ノ熱望カ達セラレ平常ノ生活カ再ビ其ノ進
行ヲ初メタ後ニ愛國婦人會ハ其ノ平時ノ事業
トシテ新メタル地域ヲ獲得スルコトヲ努メ廣キ事
業ノ野原ハ此ノ會ノ目ノ前ニ横ハワテ居ツタ此ノ會ハ
何時何處ニ起ツタ災害ヲモ只之ヲ輕減スルタケ
テハ満足セナイ寧ろ災害ノ本源ヲ探究スルコトヲ
要~~點~~トシテ居ツタ此ノ會ノ最モ重要ナル事業ハ勿
論其ノ本末ノ目的ニ忠實ニ備不時ノ戦争ノ場
合ニ對スル準備デアル此ノ事業ノ傍ラ看護婦ノ
養成ハ又目欲シキ事業綱目ノ一ツデアル其ノ他貧

民救助、衛生、乳児及遺児ノ養育等ノ事業モ愛
國婦人會カラ着手~~セ~~シタ又貧民ニ收入ノ比較的
イ道ヲ共ヘル為ニ内職ノ供給ニ注意ヲ拂フタ又
特別ナ色々ナ災害例ハ一千八百七十二年東海
岸ノ海嘯ニ依ツテ起ツタ被害、「ライオン」、「イェルベ」
「オーデル」河ノ氾濫、一千八百七十九年「上シエレジエ」
ニ起リタル飢饉等ハ此ノ會ノ力ノ特別ナ奮闘ヲ要
ホシタ

此ノ大戦争ノ翌年既ニ此ノ會カ如何ニ隆盛トナ
リタルヤハ一千八百七十八年老皇帝皇后兩陛下ノ全
婚式ノ永久ノ紀念トシテ各州ニ於テ百二十以上ノ慈
善的建設物ヲ作ツタコトテワカル
先后「アウグスター」ノ死後皇后「アウグスター」

クトリアル^ハ愛國婦人會ノ保護者ヲ承諾シ同
會ヘ次ノ言葉ヨリ成ル手書ヲ賜ツタ

余ハ吾々ノ統テヨリ尊敬サレ愛サレテ居ル^皇先

「アウグスター」ノ意ヲ承ケテ此ノ事業ヲ誘掖ス

ルコトヲ得ルハ余ノ喜ビ且満足スル所ナル又余ハ

將來ニ對シ實行的ノ犧牲樂及拳國一致ノ愛

國心ニ信賴ス^{地味}テハアルカ然シナカラ結果ノ

好キ此ノ種ノ事業ヲ喜ブ然テ人ニ對シ本日余

ハ心カク感謝ノ意ヲ表スルテアル

皇后陛下カ如何ナル熱心ヲ以テ又如何ナル不屈不撓

ノ忠實ヲ以テ此ノ事業ニ干渉シタカハ此ノ會ノ發達

カ證據ヲ提供シテ居ル此ノ會ハ獨逸國ノアキラニ

モコケラニモ其ノ事業ヲ普及セシムル為メ建物ヲ澤

山買上分又ハ建築シタ之レ等ノ建物ハ到ル處戰時

又ハ非常時ニ病院トシテ用ヒル^{見込}注用キヤル多

クノ所ニ學理上及實際上ノ看護講習會カ開カレ

タ此ノ講習會ハ出來ルカケ多クハ軍醫ヨリ講義

セラレ屢々戰事病院ニ於テモ亦講習會カ開カ

レ講習生ニハ何時テモ其ノ手廻リノ物ヲ利用ス

ル様ナ應急的ノ智識ヲ其ヘタ數多ノ赤十字病

院ノ為メ新教々會婦組合又ハ旧教ノ婦人組合ト

同ニ様ニ特別ニ組合カ作ラレタ會員タル老婦寡

婦ノ保護、赤十字ノ徽章擁護其ノ他共同的ノ利益

ヲ進ムル獨逸赤十字病院ノ組合ハ約四十ノ支部

及建設物ヲ持ッテ居ル愛國婦人會、本來ノ平和

事業ハ甚多様ニ形成サレテ居ル、療養所

ノ設備、産婦ノ自定療養、薬剤函ノ給與、治療
道具ノ貸與、殊ニ産婦ノ旅行籠ノ貸與、如キ
ハ會員ノ看護事業ノ範圍ニ屬スルモノデア
婦ノ旅行籠ニ入ツテ居ル物ハ注意深ク消毒サレ
醫師ノ規則ニ非常ニ克ク適フモノデア
貧シキ家ニモ亦用ヒラレナケレバナラヌト云フ主旨
デア
ル此ノ制度ハ此ノ會ニ於テ救済看護所或ハマ
ルガレツトシテ救助ノ名稱ノ下ニ非常ニ廣ク普及サレ
タモノデア
者及平癒者ノ保護、職業紹介、内職ノ奨励、ア
ル、多クノ會ハ料理場、珈琲室、スーパ道具ヲ備付
ケテ居ワタヌ多クノ場所ニハ女中養成所、料理
學校及家庭學校カ建テラレテアツタ、又會ハ肉

芽病及「東プロイセン」州ニ於テ傳染ノ為メ恐シキ
有様ノ陷ツタ傳染眼病ニ對シテ結果ノ好キ豫防ヲ
試ミタ、肉芽病ト相並シテハ結核病ノ豫防デア
愛國婦人會ハ特ニ結核病ノ豫防ニ意ヲ用ヒタ
同ジク白地ニ赤十字ノ旗ノ下ニ其ノ事業ヲ始メタ
國民療養所ノ設立ニ促サレテ愛國婦人會ハ益
ニ各種ノ癆症ノ豫防ヲ計畫シタ「ザクセン」州ニ
於ケル會ノ組合ハ「ゴンメル」州、「フオーゲルザン」
山林中ニ婦女ノ肺療養所ヲ設立シ又「カッセル」
於ケル會ハ「オーベルカウフ」ニ男子ノ肺療養
所ト子女ノ肺療養所トヲ設置シタ其ノ他ノ會
モ肺病ノ保護所ヲ建設シ且療養者力療養
場ニ滞在シテ居ル間、家ニ取残サレタル家族ノ保

護ヲ實行シタ、近年ニ於テハ愛國婦人會ハ官
管勞働保險ト協力スルヨウニシテオム又多クノ地
方ニ於テ實行サレテ居ルカ愛國婦人會ガ弱イ
子供ヤ生長シテ居ル幼女ヲ毎年送り出しテ居ル
海岸小児療養所カウ如何ニ多クノ幸福カ流シ
出テ居ルヨ大都市ニ働イテ居ル國民ノ居住上ノ
不幸及鬱散機會ノ欠乏ヲ救済セトシテ會ハ
特ニ大都市ノ業務ニ苦レテ居ル婦人ノ為メ工場ノ
喧噪ト塵埃カラ隔ツテ而カモ鐵道ヲ達シ得ル
近距離ノ所ハ森林鬱散所ヲ設立シタ、休暇殖
民地ハ既以前カラ出來テ居ラタカ又愛國婦人
會ノ側カラ熱心ニ奨励サレ病人殊ニ結核ノ疑ア
ル小児ノ為メニ建テラレタル森林學校ハ殊ニ伯林

ノ近クニ近寄ツテ来タ他ノ多クノ事業ニ會ノ奨
励カラ發達シテ其ノ事業ノ一部分又ハ全部獨
立シテ經營セラシ又ハ特別ナル會ニ依テ經營セラ
シタト云フ様ナ方法ヲ益々發達ラシタノテアル之
レ等ノ會ノ事業ノ一ツハ乳児養育デアラフテ其ノ起
源ハ皇后陛下ガ新タニ現レタル不祥事即時代ノ要
求ニ因リテ生じタル不祥事ヲ如何ニ注意シテ進
究シタカラ示シテ居ル獨逸國ニ於テ一切ノ子供ノ死亡
率ハ歐羅巴ノ他ノ多クノ國ヨリ多イトイフ事ハ隱
レモナキ事實デアアル唯墺太利及露西亞ニ於テ年
々出生スル乳児ノ死亡率ハ我が獨逸ヨリ多クノニア
ル其ノ他ノ諸國ハ我が獨逸ヨリ乳児ノ死亡率
ハ少クノテアル獨逸國ニ於テハ出生児ノ五分ノ一

以上一歳未満ニシテ死亡シテ居ル一千九百三年ノ出生児ハ二百萬ニ達シ一歳以下ニテ死亡シタル小児ノ数ハ恰度四萬五千人バカリアル乳児ノ死亡ハ實ニ色々ノ原因ニ基ク或ハ遺傳的素質ニモアル或ハ居住状態ノ悪キニモアル或ハ工業手工業又ハ農業ニ於ケル婦人ノ過度ノ勞役ノ如キ社會上ノ原因ニ基クコトモアル或ハ俄ニ起ル狂暴ナル傳染病ニ原因スルコトモアル而シテナカク望マレカザル統計ハ総テノ死亡乳児ノ三分ノ二ハ營養不良ニ原因スルコトヲ示シテ居ル換言スレハ乳児死亡ノ大部分ハ乳児時代適當ニ養育サレルト云フコトヲ妨ケラレテ居ル、皇后陛下ハ此ノ事實ヲ等閑ニ付セナカツタ一千九百四年十月十五日、~~皇~~陛下ハ愛國婦

人會ニ手書ヲ賜ツタ其ノ手書中ニ皇陛下ハ上流社會ハ乳児死亡ノ豫防ノ為メ官衙ト協力シテ行動シ先ツ第一ニ矯正ノ途ヲ講セナケレバナラヌト云フコトヲ述ベラレタ此ノ手書ハ第一ニ乳児ノ死亡ニ對スル豫防作用ヲ大々的ニ組織シ統一的ニ實行スルト云フコトヲ目的トシテオル而シテナカラ後ニ至ツテ乳児養育ノ適當ナル方法ニ従フトモ尚十分ニ乳児ノ死亡ヲ豫防スル問題ニ解決セラレナラトイフコトが定マツタ時ニ皇后陛下ハ乳児養育ノ防ニ付キ模範所ノ設立ヲ促シタ乳児養育ノ模範所ハ乳児養育ノ全般ヲ研究シ其ノ研究ノ結果ヲ國民ノ一般階級ニ知ラセルト云フ任務ヲ持ツテ居ル、皇帝皇后陛下ハ此ノ乳児養育模

範所ノ計畫ヲ立テラレタ時ニ皇后陛下ハ尚同日
喜ビノ餘リ乳児養育模範所ノ設立ノ独逸委員
ニ次ノ手書ヲ賜ハツタ

余ハ一年前獨逸國ニ於テ恐^レシク澤山起ル一歳
以下ノ乳児ノ死亡ニ依ツテ吾々ノ祖國ニ生スル大ナ
ル國民的及經濟的恐慌ヲ知り乳児死亡ノ豫防
ニ對スル模範所設立ノ為メ組織セラレタル独逸
委員會ノ保護者タルコトヲ承諾シタ時^ニ此ノ顯
著ナル任務ハ唯官公衙、學者及ビ同情ヲ以テ此
ノ事業ノ為メ好^シテ贊成ヲ表スル人々ノ一致的ノ
協同ニ依テノミ遂行サレト云フコトヲ知ツテオル
本日此ノ模範所ノ資金ノ大部分ガ既ニ保障
サレテ居ルコトノ報告ヲ事務委員會ヨリ聞クハ

余ノ大ニ満足ニ感謝スル所デアツテ此ノ報告ヲ
歡迎スルノテアル余ノ計畫シタ立派ナ設計ハ既
ニ皇帝陛下ノ裁可ヲ得テ居ル而シテ余ハ建
築ヲ出来得ルカク最近ニ於テ始メラレシコト
ヲ望ム余ノ計畫シタル願望ニ能ク適合スル様
ニ余ハ獨逸帝國ニ於ケル乳児ノ死亡ヲ豫防ス
ル為メ此ノ模範所ニ皇后「アウグステー」フ
クトリア[」]院ナル名稱ヲ與ヘシトスルコトニ此處
テ同意シヨウト思フ一千九百七年二月十一日伯林
ニ於テ「アウグステー」フ[」]クトリア[」]

吾人ハ皇后陛下ガ此ノ大キイ愛國婦人會ヨリ
出来テ来タ新ラシキ博愛事業ノ支部ノ保護者
タルコトヲ承諾シタコトヲ此ノ文書中ヨリ知ルコト

ヲ得ルノデアアル然シナカラ此ノ新シイ義務ノ承諾
ニ依テ皇后陛下ハ決シテ在来ノ會ニ冷淡ニハナラ
ナイ、愛國婦人會ノ委員總會ハ一千九百四年國務
大臣「ドクトル」^トニステット「ヨリ」次ノ言葉ヲ以テ開
會セラレタ

吾々ノ總會ニ陛下カ御臺臨ニ成ルノカ例ニナツテ
居ルコトハ會ノ為メ特別ニ意味ガアルノデアアル
而シナカラ其ノ特別ニ意味ノ中ニ會ト會ノ
尊キ保護者即陛下トノ間ニ成立シテ居ル
内部ノ人的ノ關係即會カ其ノ事業ノ為メ
助力ト新ニ願望ヲ常ニ陛下ニ仰フコトノ出
来ル關係ヲ外部ニ表シテオルコトヲ認識シ
ナケレハナラヌト信スル

余ハ又特別ニ喜ハシキ感謝ヲ以テ皇女「フリー
ドリツヒ」殿下ニ挨拶ヲスル余ハ皇室ノ最モ年
少ナル皇女カ既ニ吾々ノ會ニ對シテ興味ヲ以
テ居ルトイフコトヲ將來ニ對スル好マシキ前
兆デアアルモノト信スル

赤十字ノ社負カ殖民地例ハ「ハ」ヘレ「ロー」レノ騷
動ニ於テ負傷者ヲ看護シテ祖國ニ盡ス為メニ
召集ヲセラレタル如ク愛國婦人會ハ内地ニ於テ
戰場ニ於ケル平和事業ノ為メニ新ク救済資
金ヲ供給スル事ニ慈善心ヲ喚起スルコトニ從事
シタ

多クノ他ノ會ノ如ク愛國婦人會モ亦我カ両陛下ノ
銀婚式ノ機會ニ於テ「ツ」ノ慈善的團體ヲ設立スルコ

りヨリ善キ感謝ノ方法ヲ知ラナカッタ此ノ目的
ノ為メニ支部カク十五万マールノ金額カ集メラレ
本部カクハ二万マールノ金額ヲソレニ付ケ加エラ
レタ此ノ慈善團體ノ名稱ハ陛下ノ望ニ依リテ「キ
ンデルハイル」^{小児救済}稱セラルタ此ノ「キンデルハイル」ハ一
歳以下ノ小児ノ保護ニ會ノ活働ヲ促進シ且補助
スル目的デアッタ

國教的愛國婦人會カ新タニ信仰ニ基キ成立シ
タル新教婦人會ノ設立ニ依テ侵害サレ或ハ其ノ
發達ヲ妨ゲラレハセヌカト云フ恐怖ノ念カ心配ヲ
シテ居ル人々カラ獨逸ノ各邦ニ彼方テモ此方テモ
發表セラルタ時ニ斯クノ如キ恐怖ハ根據ノ無イモノ
デアルトイフコトカ忽チワカワテ来タ此ノ新設セ

ラレタル會ハ旧来ノ會ニ其ノ支部ノ數ニ於テ直
チニ同數ニ達シタカ愛國婦人會ノ支部ノ數ハ一
千九百四年ニハ四十六、一千九百五年ニハ三十一、一千九百六
年ニハ六十四、増加シタ一千九百七年ノ年報ハ愛國婦
人會ノ支部ノ數ヲ千二百六十四ト報告シタ其ノ全
會員ノ數ハ一千九百六年ノ終ニハ三千六万三千七百六
十二人ニ達シタ之レ等ノ會員ハ七十七万五千三百五十
六「マール」ヲ贊助金トシテ支拂フテ居ル同年ニ於
ケル此ノ會ノ全收入ハ約六百万「マール」デアラタ其ノ
全体ノ資産ハ一千九百万「マール」以上ナル此ノ會ハ
六十一ノ病院ヲ所有シ其ノ内十六ノ病院ハ同時ニ
赤十字ノ本部デアラタ千三十八人ノ會員ノ誥所
トナツテ居ル此ノ千三十八人ノ社員ノ外ニ愛國婦人

會ニ勤務シテ居ル保護婦ハ九百六十三人、「カトリック」
ノ教會婦ハ七十六人アル而シテ勤務シテ居ル婦人ノ總
數二千三百四十一人ニシテ其ノ内二千五十九人ハ看護婦
デアツテ其ノ他ノ者ハ幼稚園、托兒院其ノ他之ニ類
似ノモノ、保護婦トシテ勤務シテ居ル

吾々カ獨逸諸國ノ彼方此方ニ皇后陛下ノ首
唱ノ下ニ成立シ又ハ同陛下ノ獎勵ニ依ツテ維持シ
テ居ル幸福ナル慈善團體ノ制度ニ付テ尚稍詳
細ナル報告ヲ成サント欲セバ尚澤山々慈善團
體及慈善的建設物ヲ舉ゲナケレバナラヌ又同
シク皇后陛下ノ保護ノ下ニ立ツテ居ル會ニ關シ
テ尚茲ニ述ベヨウト思フノハ独逸ノ首府ニ於テ
幸福ヲ與ヘテ居ル少女保護會デアル

柏林市ニ

於テ著者ノ活動時代ヨリ今日ニ至ル迄憐レシ泣
イテ居ル母ノ叫ビ聲ガ著者ノ耳ニ如何ニ響クイテ
來ルカト云ハ

「私ノ娘ハ大都市ノ祝祭又ハ雜沓ノ隆行方
不明ニ成ツタ、鎖モ無ク防ギモ無ク又警戒
モナク又忠告モ無シニ私ノ娘ハ大都市ノ浪
ニ沈ミ而シテ其ノ中ニ溺レテ居ル、誰レカ私ノ
娘ヲ救フテ呉レルモノハナイカ又救フテ呉レル
コトカ出來ルカ」

溺レタ者ノ頭ノ上ニ波ガ打寄セテ來タ時ニ其レ
ヲ再ヒ救出スコトヨリハ溺レヌ様ニ保護スルコトノ
方カ容易デアルソレ故ニ少女保護會ハ其ノ事
業ノ目的トシテ先ツ柏林ニ於テ若キ單身ノ工女

ニ親ノ家ニ代ルヘキ居宅ヲ提供スルコトニ定メ先
ツ伯林ニ四ヶ所ノ少女寄宿舎ヲ建設シ單身者
ヲシテ此ニ宿泊シ食事ニ娛樂ニ相談ニ慰ム事
ノ出来ル様ニシタ各寄宿舎ハ五十以上八十以下ノ
寄宿生ヲ有シ母タルヘキ舎長ガ居ル共々ニ愉快
ニ同シ部屋ニ家母ト夕方集ツテ真面目ノ教
訓的ニ愉快ニ講義ヲ聴キ或ハ遊戯及音樂ノ
内ニ自由ニ談笑スル有様ハ全ク家庭的デアラフタ
毎朝氣ヲ樂シキ交際ヲスルトコロカラ不幸ノ時ニ
ハ互ニ助け合フ氣ニナツテ居ツタ、確ク神ヲ信シ
テ居ルモノハ弱イ者及迷ワテ居ルモノニ忠告シ又
ハ救助スルコトニ努メタ、奴僕宿泊所ハニウノ少
女寄宿所ト團結ヲシ少女寄宿所ト同シク宿

泊人ニ對シテ母タルノ世話ヲシタ又奴僕宿泊所
ハ傍ラ職業紹介ノ仕事ヲシタ少女寄宿所ノ
寄宿生ノ誠實ナルモノハ或ハ商業ニ従事シ或ハ
電話交換手ヲ勤メテ居ツタ寄宿生ノ一人ハ曾
テ次ノコトヲ言フタコトガアル

私ハ寄宿舎ニ最早五年モ居ル若シ私カ此ノ寄
宿舎ニ這入ラナカッタナラバ伯林テ暮ラストイ
フコトが出来ナカッタロウト思ハレルト

又此ノ會ハ二十二人ヲ收容シ得ル少女養育院ヲ
持テ居ル、又此ノ會ノ「ボースフェルド」メクレンブルク
及「ハーベルベルク」ノ鬱散所ニ於テハ夏期ニ於テ
低廉ナ寄宿料又ハ無料ニテ三百人ノ寄宿生
ヲ收容スルコトが出来ル伯林ニハ會ニ屬スル

ニツノ旅舎ガアツテソレハ年々約九千人ノ客ヲ宿
泊セシメ會ヲ輔ケ事業ノ資金ヲ供給セテ居ル
又伯林ニ於テハ彼方ニモ此方ニモ有志者ノ篤志ニ
基キ少女ノ為メニ俱樂部カ建テラレタ此ノ俱樂
部ハ特別ナ女ノ俱樂部長ヨリ支配サレル此ノ俱
樂部ハ富ト名ヲ成サントノ希望ヲ有スルモ家
モ職業モナキ少女ヲ鼓舞シ之ニ助力ヲ與ヘル
ヲ目的トシテ居ル、コ、ニハ圖書室、翼琴、「ミシン」
ヲ備ヘ付ケ訪問スル婦人ニ各種ノ娛樂、宗教
上ノ會合、談話、藝術、家政及商業上ノ智識ノ
養成等ノ利益ヲ與ヘル、俱樂部員ノ貯金ハ何時
デモ受納セラレ利息ヲ付セラレタ、首府ノ諸方ニハ
五ツノ俱樂部カ出來テ居ツタ、皇后陛下ノ敕助ト

恩惠トニ依テ既ニ成立シテ居ル俱樂部ニエ女ノ
為メ特別ニ俱樂部カ付屬セシメラレタ其ノ特別
ニ俱樂部ハ同シク平日、於テハ夕刻ノ祈禱
時間、日曜日ニハ午後四時カラ開場シ談話、鬱
散、修養ノ機會ヲ與ヘル
少女保護會ハ禮拜堂組合ト共同シテ基督教
ノ婦人ノ博愛事業ヲ發達セシムル為メ講習
會ヲ始シメタ此ノ講習ハ三ヶ月間繼續シ先ツ
聖書ノ紹介、寺院及博愛事業ノ學理及沿革、
社會的婦人事業ノ紹介等ヲ主眼トシテ帝國ノ
宗教事業ノ實際上ノ鍛鍊ハ此ノ學理ヲ主ト
シタル講習ニ裨益スル所アツタ此ノ實際教育
ハ慈善的施設、宗教區ノ事務及會ノ事業ニ

於ケル職員ノ任命及協力ヲ必要トシタカラテアル
事業ノ範圍ハ托兒院、幼稚園、幼女避難所、養
育院、小兒禮拜、貧民救助、孤兒救助其ノ女少
女婦人會ノ少女保護、幼女俱樂部、聖書ノ婦
人組合、商工業ニ於ケル保護最後ニ少女寄宿
所ノ案内職業紹介所等デアアル實際事業ハ
非常ニ廣イ領分ヲ持ッテ居ル

警戒ハ救助ヨリ容易テアル田舎ノ若イ經驗ノ
無イ幼女ガ伯林ノ「シユレジャ」停車場ノ群衆ノ人波
ノ中ニ立ッテ居ッタ此ノ幼女ハ郷里ヨリ一地位ヲ得
ントシテ今其處ニ来テ居ルノテアル懷中ニ主人ヲ
紹介状ヲ持ッテ居ル併シナカラ何ウシテ其ノ主人ヲ
見出シテヨイカ心配ソウニ彼方此方ヲ見廻シテ

居ル其處ニ一人ノ紳士ガ其ノ幼女ノ傍ラニ寄ッテ来
テ如何ニモ親切ラシクシテ案内センコトヲ申出テタ
紳士ハ幼女ヲ何處ニ案内スルタロウカ幼女ハソ
レヲ知ラナカッタ然シナカラ紳士ハ十分精密ニ
道ヲ知ッテ居ル紳士ハ幼女ハ危嶮ナ場所試ニ墮
落ノ地ニ案内ラスル、千人ガ千人マテ言フダロウ斯様
ナ人或ハ斯様ナ方法ニ對シテヨク私ハ自分ヲ保
護スルヲ知ッテ居ルト、然シナカラ千人ガ千人マデ
此ノ方法ヲ誘ハレ陷ルノテアル斯様ノ危嶮、對シテ
少女保護會ハ伯林停車場傳道會ヲ設立シタ
而シナカラコレハ案内的ノ保護バカリテハナイ同
道又ハ尾行シテ迄保護スルノ主旨デアッタ停車
場ノ傳道ハ伯林ニ誘拐スルノ危嶮ヲ防ク為メ田

舎又ハ少サナ町ニモ現ハレ官衙、僧侶、學者ノ周旋
並ニ新聞ノ協カラ求メ発車及乗換ノ停車場ニ於
テ救護婦ヲシテ印刷シタル少女寄宿舎ト少女保
護會ノ関係法規並ニ細則ヲ少女ニ配布シ又ハ必
要ナルダケ取ラシメタ四季ノ變リ目ノ期間會ノ
救護婦ハ首府ノ新シキ中央停車場ニ到来スル幼
女ニ注告ヲナシ又ハ之ヲ救助スル為メ出張シテ
居ツタ救護婦ハ幅ノ廣イ分カリ好キ白イ腕章
ヲ付シ少女等ニ容易クワカリヨキ様ニシテ居ツタ
サテ世馴レサル田舎モノヲ正シキ道ニ導キ又ハ不親
切ナル口入業婦ニ對シテ保護ヲシ或ハ其ノ主人
ニ案内ヲ實行シ新シイ列車ノ到着スル毎ニ救護
婦ハ再ヒ世話ヲスル為メニ「プラットホーム」ニ現ハレタ

四季ノ變リ日ニ停車場ノ救護婦ニ向ヒテ伯林ノ混
雜ノ中ヲ押シ分ケテ出テ来ル少女ノ群ノ中ニハ其
ノ救護婦ヨリ短イ親シキ言葉ヨリ多クノ言葉ヲ
懸ケラレタモノハ勿論極メテ少ナカッタガ然シナガラ
又此ノ通り一片ノ挨拶ガ幼女ニハ幸福デアッタ殊ニ
注意ヲ受ケテ伯林ニ残ツテ居ル幼女等ニハ翌月迄
尾行的ノ保護ヲ繰リ返サレタ、一週間ニ一回ツ、十
四歳ヨリ二十一歳マテノ保護セラレタル全体ノ幼女
ノ姓名ノ報告表ガ警察署長ニ提出セラレタ、又
地方ノ少女會ノ多數ノ牧師及案内婦ハ保護會ニ
保護セラレタ者ノ報告ヲ公表セシメタ、少女ハ最早
自ラ質問シ相談シ又ハ會及俱樂部ニ紹介ヲ持
ツテ来ル様、成ツタ會ヤ俱樂部ハソレヲ世話シテ

ヤリ被保護者ノ大ニ益スル所カアツタ
皇后陛下ハ又此ノ事業ヲ心カラノ同情ヲ持ツテ遂
行シタソレニ付テハ伯林ノ北部ノ片田舎ニ五十年
前古老「ホルジツヒ」ノ大工場（鍊ノ製鍊所）ガアツタ其
處ハ尚今テモ久シキ以前ノ昔ヲ偲バレルガ「ホル
ゲツヒ」町ニ工場及少女保護會ノ第一少女寄宿
所テアル或ル日デアツタ皇后陛下ハ其所ニ成ラセラ
レ總テラ巡視セラレントシ官廷馬車ニテ通御セラ
レ少女寄宿所ヲ上階カラ地下室マテ巡視セラレ
少女等カ働イテ居ル所ヲ長ク間熟視セラレ殊
ニ臺所ニハ長ク立留マラセラレ御自身ノ家政ノ
為ノ大ニ利益スル所アツタトイフ御言葉ヲ述
ベラレタ

皇后陛下ハ多數ノ慈善團體及慈善的設備ノ
保護者ナルガ故ニ博愛事業ノ行ハルノ家ヲ御
覽ニナツタノテアル既ニ上未述ベタ會ノ外ニ茲ニ述ベ
タキハ「レットーフエライン」デアアル之ハ少女ニ家政及色々
ナ實際生活ノ職業上ノ練習ヲナサシムルヲ任務ト
スルモノデアツテ「カイセルスウエルト」「ウイッテン」「ダンテ
ツヒ」其ノ他「ベターニエン」伯林ノ「パウエルハルト」等
ノ保護婦會テアル皇后陛下ハ常ニ輕薄ノ敵デア
アル殊ニ宗教上ノ冷淡ノ敵テアル、又吾々ノ時代ニ
於テ屢々上級下級ヲ通ジテ存在スル守銭ノ敵
デアアル皇后陛下ハ時代ノ總テノ弊害ヲ新教ノ名
ニ於テ又信仰ノ力ニ依ツテ暴露シ真面目ニ其ノ
撲滅ヲ計ツタ陛下ハ神ニ歸依シ人ヲ畏レナカツ

夕此ノ道ヲ常ニ極端ニマデ正シク實行スルハ容
易ノコトデハナイ而シテ信仰ノ熱心及神聖ナル
博愛ガ神壇ノ火トナツテ燃へ上ツタ時ニハ其ノ火
ハ耀ク所ノ光ヲ放ツ、吾々ノ皇后陛下ハ「慈善
家ハ樂ンデ慈善ヲ為ストイフ羅馬人ノ手紙ノ
言葉ヲ深ク肝ニ銘シテ居ツテ如何ナル不幸ガ
陛下ニ起ルトモ力強クソレニ對抗スルコトガ心ノ
命令デアリ又神聖ナル本分デアルト信ジタ又
皇后陛下ハ其ノ會ノ大會ニ自ラ御台臨ニナル計
リデハナイ詳細ニ事業ニ付テノ報告ヲ為サシメ
ルガ常デアル又何處ニデモ不幸ノ起ツタ時ニハ
ドレナ救助ヲシテヨイカラ調へル為メ其ノ場所
ニ急イテ行ク計リテハナク博愛ノ為メニ非常ナ

御仁慈ノ心ヲ起サレテ數千人ノ人々ニ御手許ノ
金ヲ下サツタ陛下カ温厚デ善良デアル証據ハ數ヘ
ラレナイ程澤山アリ又陛下ノ慈善ト救助ニ依リ
憐愍ヲ加ヘラレタコトハ數ヘラレナイ程アツテ唯々
日常ノ新聞カフレラ記載スルノミナラズ陛下ノ
側近ノ多クノ人々ガ又ソレヲ報告シテ居ル
「エルザス」ノ「ハーゲナウ」生レノ一人ノ小娘ガ「ナンシー」
ニ於テ奉公ヲシテ居ツタ、其ノ母ハ重病デアツタ
小娘ハ母ノ病牀ニ急行シタ所カ國境ニ於テ通
行券ヲ所持セサル為メ引留メラレタ、其ノ小娘
ハ嘆願シ啼泣シタケレドモ總テ無益デアツタ
ツコデ此ノ若イ「エルザス」生レノ小娘ハ自分デ皇
后陛下ニ電報ヲ打ツコトニ思ヒ付イタツコデ

次ノ電報ヲ打ツタ

母ノ死ニ目ニ喚ハレタ「エルザ」生レノ一人ノ小娘
ハ國境ヲ通過スルコトヲ妨ケラレ陛下ノ最
高ノ助ケヲ願フ

二三時間ノ後娘ハ國境ヲ通過スルコトが出来
ク陛下ガ此ノ小娘ノ嘆願ヲ聽イテヤツタカラテ
アル

「カウセル」ノ病院デ皇后陛下ハ重ヒ病牀ニ打臥
テ居ル指物師ノ小娘ニ問ヘラク御前ハ幾ツニ
成ルカ愛ラシキ小供ヨト、小娘ハ子供心ノ喜ビテ
答フラク今日ハマダ私ハセツデアル明日ハ八ツニ
ナルト皇后陛下ハ御笑ヒヒナツテ其ノ翌日此ノ小
娘「エリザベス」ニ大キナ箱ヲ贈ツタ其ノ箱ノ中

ニハ陛下ガ此ノ子供ノ誕生日ヲ祝フ為ノ奇麗ナ
人形ト繪本トヲ入レテオイタ

「フレンスブルグ」ノ病院ニ喉頭ヲ切断シタ為メニ
談話ヲ妨ゲラレテ居ル一人ノ男ガアツタ其ノ男ハ
名刺ニ「神々吾々ノ貴キ皇室ヲ保護スルトイ
フコトヲ書イテ皇后陛下ニ送ツタ陛下ハ其ノ下ニ
答トシテ次ノコトヲ書イテヤツタ

「神ハ貴方ニ此ノ上ノ快癒ヲ贈ル、貴方ヲ見ル
コトヲ私ハ喜ブ」ト此ノ一枚ノ粗末ナル名刺
之レニハ上記ノ問答ガ書キ付ケテアル、吾々ハ
又、此ノ名刺ハ病人ニ對シテハ一ツノ寶デアリ
又吾々ノ陛下ニ對シテハ名譽ノ徽章デアルト
イフコトヲ此ノ名刺ニ書キ添ヘヨウト思フ

慈愛ヲ振り蒔ルコトハ皇后陛下ノ娛樂ヲ且ツ
陛下ノ生命デアル慈愛ヲ振り蒔ルコトハ陛下ノ本
性ニ適合シテ居ルトイフコトハ陛下ニ接シテ
居ルモノハ皆感ジテ居ル「ステックリッツ」ノ皇室訓育
學院デ次ノ如キ挨拶ヲ以テ陛下ヲ歓迎シタ盲
學生モ亦其ウ感ジタノデアアル

仮令盲目ハ陛下ヲ見ナイケレドモ吾々ハ心ニ
喜シク感ジタ、吾々ニマデ陛下ヲ導イタモノハ
博愛デアル夫レ故、又博愛心ハ陛下ノ親友
デアル

又皇后陛下ハ其ノ皇室ノ為メ又ハ自分ノ為メ得タ
ル幸福ノ内幾分カラ他人ニ分配シテヤツタ皇
子「ヨアキム」ノ誕生、際シ陛下ハ公立産科醫

院ニ於テ同日、世界ノ光リヲ見タ生兒が何人アル
カラ取調ヘサセ其ノ生兒ノ為メ直ニ澤山ノ著物
ノ準備ヲ命ゼラレタコトガアル

又皇后陛下ガ其ノ他ノ多クノ新事業ニ對シ同
情ト救助ノ努メラレタト同シ様、以前陛下ガ
保護ヲ與ヘタ慈善的ノ施設、對シテモ常ニ
之ト劣ラサル忠實ヲ以テ心配ラセラレタ尚一千
九百八年ノ日刊新聞ハ皇后陛下カ「ルメルスブ
ルク」ニ行啟ノ際同陛下ガ曾テ同所ニ發起シ
設立シタ病院ニ成ラセラレ親シク病牀ニ臨マセ
ラレ憂患者ト談話ラセラレタトイフコトヲ報告
シテラル、負傷者ノ内ニ鐵道ノ官吏ガ居ツタ其
レハチヨット汽車ニ轢カレタノデ両方ノ足ト右ノ

腕ヲ切断シナケレハナラナカッタ、陛下ハ此ノ患者
ニ圖引機械ヲ贈ルコトヲ約束シタ、陛下ハ此
患者ハ其ノ機械ヲ以テ暫ラク練習シ後、圖引
ノ仕事ニ依テ生計ヲ立テル様ニナツタトイフコ
トデアル、又陛下ハ婦人科ニ於テ患者ノ中ノ
「シユレスウ」ヲウクホルスタインノ一婦人ニ話シ懸
ケ行啟ノ紀念トシテ其ノ者ニ紀念物ヲ贈ツ
タ
尚此ノ種ノ記事ハ多クアルモ既ニ述ベタ所ノ
記事ニ依ツテ吾々ノ皇后陛下ノ心ニ深ク這
入ツテ觀察ヲスルニハ充分デアル

